

第4章 県立高校改革推進計画における新タイプ校の設置

「県立高校改革推進計画」の「前期実施計画」では、再編統合及び単独改編により新しいタイプの高校等が19校設置された。「後期実施計画」では新しいタイプの高校15校と中等教育学校2校が設置され、定時制課程では、5校が新しいタイプの高校へ改編された。さらに、「県立高校改革推進計画」の新たな対応の取組みとして、クリエイティブスクール3校、連携型中高一貫教育校2校の取組みが始まり、定時制単独校（多部制）1校が設置された。

本章では、「県立高校改革推進計画」の前期・後期に設置された新校及びその後の新たな対応の取組みにおいて設置された新校の設置目的や基本的コンセプト、教育課程の工夫などについて、各新校の「新校設置計画」を基に述べることとする。

1 単位制による普通科高校の設置

（1）本県初の単位制高校

神奈川総合高校の 設置

平成7年4月、本県初の単位制による普通科高校として神奈川総合高校が開校した。単位制高校は昭和63年3月、「学校教育法施行規則」の一部改正と「単位制高等学校教育規程」の制定がなされたことで、定時制及び通信制課程において導入が可能となり⁹⁷⁾、平成5年度からは全日制課程においても設置が可能となった⁹⁸⁾。

本県においては、平成元年3月に「神奈川県高校教育問題協議会」による「高等学校教育の充実について－第1次報告－」の中で、単位制に基づく新構想高等学校の設置が提言された⁹⁹⁾。その後、平成4年3月には、「新構想高等学校設置検討委員会」（平成3年1月設置）が「新構想高校設置計画について（報告）」を公表し、新構想高校の教育の特色や設置場所、入学者像等の詳細について明らかにした。これらの報告を踏まえ、県教育委員会は、平成6年4月に「新構想高校開校準備室」を設置し、単位制高校に関する基本方針等の検討を進め、同年10月、設置条例の改正を経て平成7年4月、神奈川総合高等学校が開校した¹⁰⁰⁾。

神奈川総合高校の 特色

神奈川総合高校の施設は、既設の神奈川工業高校の改築と合わせ、その敷地内に2校が一体となるよう建築された。地下1階、地上10階建ての校舎は、中央スペースには図書館、プール、食堂等の共有施設を配置するなど、両校の連携を深めるための工夫もなされている。

神奈川総合高校の設置の趣旨は、①「生徒の一人ひとりが、自らの個性に合った学習内容を選び、個性を更に伸ばすことのできる教育を行う」こと、②「高等学校を中途退学した生徒について、学習意欲があり個性を伸ばそうとする者を受け入れる」こと、③「本県の特性を踏まえ、海外帰国生徒・在県外国人を受け入れ、一般県民の子弟と共に

学ぶ国際教育を行う」こと、④「普通科・職業科の枠を超えた総合学習ができる教育を行う」こと、⑤「国際、環境、科学技術など 21 世紀に向けて、多様な内容の生涯学習の機会と場を提供する」ことの五点である¹⁰¹⁾。

また、設置趣旨を踏まえた教育活動の特色については、次の五点に整理することができる¹⁰²⁾。

- 「個性化コース」を設置する。「個性化コース」には必修科目・必修選択科目に加え、文学系・社会系・環境系・科学系・数学系・福祉系・スポーツ系・音楽系・舞台系・美術系・工学系・バイオ系・情報系といった 13 の系に多数の科目を設置し、生徒一人ひとりの個性を伸長する教育を展開する。
- 入学者選抜において、高等学校中途退学者の募集枠を設け、高等学校中途退学者のうち、学習意欲があり個性を伸ばしたい者への勉学の機会を提供する。
- 「国際文化コース」の設置や、海外帰国生徒・在県外国人募集枠の設定など、海外帰国生徒・本県外国人生徒の受け入れにより、一般県民の子弟と共に学ぶ国際教育を実施する。
- 神奈川工業高等学校との連携、工業・商業科目の設置、併修制度の実施などにより、普通科・職業科の枠を超えた総合学習ができる教育を実践する。
- 国際、環境、科学技術など、21 世紀に向けた、リカレント学習を中心とする生涯学習の機会と場を提供する。

(2) 「前期実施計画」における設置拡大

「前期実施計画」による 単位制普通科高校

平成 11 年 11 月策定の「推進計画」においては、普通科における一人ひとりの特性、進路希望、幅広い興味・関心に応じた特色ある教育を多彩に展開するため、「教育内容に特色をもつ単位制による普通科高校」の設置拡大を図り、「前期実施計画」では平成 16 年度に横浜旭陵高校、三浦臨海高校、小田原高校（定時制を含む）の 3 校が開校した（第 12・13 表）¹⁰³⁾。

第 12 表 単位制による普通科高校（全日制）の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横浜西部 〔平成 16 年度〕	都岡高校 中沢高校	都岡高校 敷地	横浜旭陵 高校	720 名 (18 学級)	
横須賀三浦 〔平成 16 年度〕	初声高校 三崎高校	初声高校 敷地	三浦臨海 高校	720 名 (18 学級)	
県西 〔平成 16 年度〕	小田原高校 小田原城内高校	小田原高校 敷地	小田原 高校	1,080 名 (27 学級)	定時制 併置

第 13 表 単位制による普通科高校（定時制）の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
県西 〔平成 16 年度〕	小田原高校 小田原城内高校	小田原高校 敷地	小田原 高校	280 名 (8 学級)	

単位制普通科高校 の概要

各校の「新校設置計画」に示されている単位制普通科高校の設置の目的は、生徒一人ひとりの進路希望や特性、興味・関心に
応じた主体的な科目選択と履修ができるよう、弾力的な教育を
展開すること、個性の伸長を図りつつ可能性を幅広く見出すための教育を行うことである。

基本的コンセプトは、横浜旭陵高校・三浦臨海高校・小田原高校の3校とも、「単位制による多彩な教育の提供」、「特色ある教育活動の展開」、「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」の三点である。それらのうち「特色ある教育活動の展開」については、生徒の興味・関心や多様な学習ニーズなどに対応するため、各校が独自の特色を出し、多様な選択科目を「系の科目」としてまとめ、多くの自由選択科目とともに設置している。

また、教育課程の弾力化として、2学期制による学期ごとの単位認定をはじめ、大学や専修学校などとの連携や、実用英語検定などの技能審査、ボランティア活動、スポーツ・文化活動など学校外の学習成果による単位認定を行い、集中講座など柔軟な履修形態による学習活動を展開している。

以下、各校の教育課程や学習指導、生徒指導など教育活動の特色について、「新校設置計画」等を基に整理する。

横浜旭陵高校

横浜旭陵高校の特色ある教育展開は、「体験学習重視と社会性・創造性の育成」を方針とし、地域の施設や自然を生かした体験的な学習を重視するとともに、豊かな社会性や創造性の育成を目指すため、特色ある分野の7つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「環境系」の「Zoology I・II（ズーラシアで学ぶ動物学）」、「生活・福祉系」の「フードデザイン」、「芸術・表現系」の「造形表現」、「健康・スポーツ系」の「フィットネス」、「人文・社会系」の「文学に親しむ」、「国際系」の「スクリーンイングリッシュ」、「情報系」の「パソコン活用講座」といったものである（第 14 表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実や、ズーラシア等地域の施設や自然などを生かした体験的な学習指導、創造性や社会性の育成を図る学習指導の工夫を行う。生徒指導等では、入学年度にとらわれない異年齢の集団によるホームルーム編成や、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は 90 分 4 限を基本とし、短期集中による実習活動を設けるなど弾力的な授業展開を行うとしている¹⁰⁴⁾。

三浦臨海高校

三浦臨海高校の特色ある教育展開は、「地域の特性を生かした教育の展開とこれからの社会に必要な資質の育成」を方針とし、三浦半島の自然や郷土の歴史を生かした環境学習や郷土学習などにおいて体験的な学習を展開するとともに、これからの社会に必要な資質を育成するため、特色ある分野の7つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「環境系」の「環境を考える」、「郷土系」の「三浦半島の歴史」、「健康福祉系」の「体のしくみ」、「科学系」の「科学実験」、「情報系」の「コンピュータ演習」、「国際系」の「日本文化紹介」、「人文系」の「人物史」といったものである（第14表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、三浦半島の自然や歴史・文化などを生かした体験的な学習指導の工夫をする。生徒指導等では、生徒の自覚を促す生徒指導の充実や、生徒が担任以外に教員を選び、個別に相談や支援を受けることができるチューターの配置、カウンセリングなどの相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は90分4限を基本とし、学校間連携による科目を設置し、他校との相互学習機会の拡大を図るとしている¹⁰⁵⁾。

小田原高校

小田原高校は、全日制課程と定時制課程が併置された新校であり、第2章でも述べたように、単位制による教育展開に関する施設を整備するため、施設活用校である小田原高校の建替を行っている。

全日制課程における特色ある教育展開は、「深化と探究をめざした教育内容の提供と国際教育の充実」を方針とし、普通科目の内容を発展させた分野や教科横断的な分野などで、個に応じた学習課題の探究・深化を図る教育内容を提供する8つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「文学系」の「古典発展」、「社会系」の「地理探究」、「数学系」の「数学発展C」、「科学系」の「物理実践」、「国際系」の「リーディング発展」、「健康系」の「トレーニング法」、「生活系」の「実用スコアリーディング」、「情報系」の「ネットワークコミュニケーション」といったものである（第14表）。また、「21世紀の社会を支える主体の育成」を図るため、幅広い国際的視野を培う国際教育の充実を図っている。

学習指導においては、小集団学習等の学習の充実に加え、応用的、発展的な内容を含め、一人ひとりの特性や習熟の程度に応じて適切な内容を学ぶことが可能となる学習指導の工夫をする。生徒指導等では、豊かな人間性を育むために、入学年度別のホームルーム単位での活動の活性化や、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は45分7限を基本としている。

また、定時制課程の特色ある教育展開は、「豊かな社会生活を営むための資質の育成」を方針とし、自らの生き方を考える社会分野、環境共生の視野を深める科学の分野、生涯にわたる健康を考える健康分野、及び情報技術革命の社会に対応する情報分野で体験的な学習を重視した教育内容を提供する4つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「社会系」の「新聞に見る時の話題」、「科学系」の「生命と環境の科学」、「健康・スポーツ系」の「フィジカルケア」、「情報系」の「初歩のパソコン」といったものである（第14表）。

学習指導においては、小集団学習や習熟度に応じた学習を充実させるとともに、各自

の学習目的や特性に基づいたきめ細かな個別の指導ができるよう学習指導の工夫をする。生徒指導等では、入学年度にとらわれず、異年齢の集団によるホームルーム編成や、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は45分6限を基本とし、自校の全日制及び他校の通信制との課程間併修による学習機会の拡大や、実務代替、大学入学資格検定試験（現、高等学校卒業程度認定試験）の合格科目の単位認定、学校外における学修の単位認定などを工夫するとしている¹⁰⁶⁾。

第14表 「前期実施計画」の単位制普通科高校における系と主な科目

校名	系（主な科目）
横浜旭陵	環境系（Zoology I・II [ズーラシアで学ぶ動物学]、生活と環境） 生活・福祉系（福祉入門、フードデザイン） 芸術・表現系（造形表現、演奏を楽しむ） 健康・スポーツ系（フィットネス、スポーツメディカル） 人文・社会系（文学に親しむ、日常生活の法律・制度） 国際系（時事英語研究、スクリーンイングリッシュ） 情報系（パソコン活用講座、表計算ソフト活用講座）
三浦臨海	環境系（環境を考える、環境科学） 郷土系（三浦半島の歴史、郷土文学） 健康福祉系（体のしくみ、現代の健康課題） 科学系（科学実験、地球の科学） 情報系（コンピュータ入門、コンピュータ演習） 国際系（日本文化紹介、アクティブ・イングリッシュ） 人文系（人物史、暮らしの法律知識）
小田原 （全日制）	文学系（古典発展、国語実践） 社会系（世界文化史、地理探究） 数学系（数学発展C、数学実践） 科学系（物理実践、化学実践） 国際系（リーディング発展、ライティング発展） 健康系（トレーニング法、スポーツコンディショニング） 生活系（実用スコアリーディング、暮らしの法律と経済） 情報系（ネットワークコミュニケーション、マルチメディア）
小田原 （定時制）	社会系（新聞に見る時の話題、仕事を考える） 科学系（生命と環境の科学、神奈川の自然） 健康・スポーツ系（フィジカルケア、集団スポーツ） 情報系（初歩のパソコン、文書作成）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

（3）「後期実施計画」における設置拡大

「後期実施計画」による 単位制普通科高校

「後期実施計画」においては、第15・16表に示すとおり、平成21年度に横浜栄高校、平塚湘風高校、平成22年度に藤沢清流高校、相模原青陵高校が開校し、平成21年度に湘南高校の定時制課程が単位制普通科へ改編された（第15・16表）¹⁰⁷⁾。

第 15 表 単位制普通科高校（全日制）の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横浜市栄区 〔平成 21 年度〕	上郷高校 港南台高校	上郷高校 敷地	横浜栄 高校	720 名 (18 学級)	
平塚市 〔平成 21 年度〕	神田高校 五領ヶ台高校	神田高校 敷地	平塚湘風 高校	720 名 (18 学級)	
藤沢市 〔平成 22 年度〕	大清水高校 藤沢高校	大清水高校 敷地	藤沢清流 高校	720 名 (18 学級)	
相模原市 〔平成 22 年度〕	相武台高校 新磯高校	相武台高校 敷地	相模原 青陵高校	720 名 (18 学級)	

第 16 表 単位制普通科高校（定時制）の概要

設置場所〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
藤沢市 〔平成 21 年度〕	湘南高校 (単独改編)	湘南高校 敷地		420 名 (12 学級)	

「後期実施計画」における単位制普通科高校の設置の目的は、「前期実施計画」時とほぼ同様であり、その基本的コンセプトは、全日制の横浜栄高校・藤沢清流高校・平塚湘風高校・相模原青陵高校の4校においては、「単位制による多彩な教育の提供」、「特色ある教育活動の展開」、「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」の三点である。湘南高校定時制については、上記三点のコンセプトに「生涯学習の機会拡大」として一部科目における社会人の受け入れを積極的に推進することを加えている。それらのうち「特色ある教育活動の展開」については、各校の方針に基づいて特色ある教育内容を提供する多様な選択科目を「系の科目」としてまとめ、多くの自由選択科目とともに設置するとしている。

また、教育課程の弾力化として、2学期制による学期ごとの単位認定をはじめ、大学や専修学校などとの連携や、実用英語検定などの技能審査、ボランティア活動、スポーツ・文化活動など学校外の学習成果による単位認定を行い、集中講座など柔軟な履修形態による学習活動を展開するとしている。

以下、各校の教育課程や学習指導、生徒指導など教育活動の特色について、「新校設置計画」等を基に整理する。

横浜栄高校

横浜栄高校の特色ある教育展開は、「深化と探究をめざした教育内容の提供と幅広い進路希望に応じた教育の展開」を方針とし、幅広い進路希望や学習希望に応じた学習内容や、普通教科の内容を深化・発展させることができる教育内容を提供する5つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「人文系」の「現代文発展」、「社会系」の「日本史発展」、「自然科学系」の「数学発展β」、「国際系」の「英文講読発展」、「生活健康系」の「スポーツ探究B」といったものである（第17表）。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、一人ひとりの特性や習熟の程度に応じて適切な内容を学ぶことが可能となるよう学習指導の工夫をする。生徒指導等では、

入学年度別のホームルーム単位での活動の活性化や、チューター制等の相談体制によるカウンセリング機能の充実などを工夫する。また、授業展開は45分7限を基本とし、応用的な学習内容や特色ある教育内容を選択して学ぶことを可能とするとしている¹⁰⁸⁾。

平塚湘風高校

平塚湘風高校の特色ある教育展開は、「体験学習重視と社会性の育成をめざす教育内容の提供」を方針とし、体験的な学習と豊かな心を育む教育内容と、国際化・情報化に対応する教育内容を提供する6つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「人文社会系」の「世界と日本の文化比較」、「自然環境系」の「数学研究」、「スポーツ・福祉系」の「応用球技」、「芸術系」の「ヴォイスアンサンブル」、「国際系」の「英文構造理解」、「情報メディア系」の「プログラミング入門」といったものである(第17表)。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、語学学習やさまざまな国の文化・歴史に関する学習活動を通じた国際性の育成やIT活用能力の育成、社会性の育成を図る学習活動を展開し、地域の施設や自然などを生かした体験的な学習指導を展開する。生徒指導等では、チューター制の導入、異年齢集団やテーマ選択別のグループによる特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は90分3限を基本とし、応用的な学習内容や特色ある教育内容を選択して学ぶことを可能とするとともに、短期集中による実習活動を設けるなど弾力的な授業展開を進めるとしている¹⁰⁹⁾。

藤沢清流高校

藤沢清流高校の特色ある教育展開は、「豊かな社会生活を営むための資質の育成をめざしたキャリア教育の充実」を方針とし、自己表現能力や情報活用能力の充実を図るため、学校必修科目「セルフプレゼンテーション」と特色ある分野の5つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「国際コミュニケーション系」の「アジア学」、「環境デザイン系」の「都市と景観」、「情報マネジメント系」の「経営学入門」、「教育・福祉チャレンジ系」の「教育実践」、「表現クリエイティブ系」の「美術館学入門」といったものである(第17表)。また、地域との交流等体験活動を積極的に取り入れた教育展開や、「朝の読書活動」を実践するとした。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、一人ひとりの特性や習熟の程度に応じて適切な内容を学ぶことが可能となるよう学習指導の工夫をする。生徒指導等では、チューター制の導入、異年齢集団やテーマ選択別のグループによる特別活動の実施、部活動等の課外活動の活性化、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は90分4限を基本とし、応用的な学習内容や特色ある教育内容を選択して学ぶことを可能とするとともに、短期集中による実習活動を設けるなど弾力的な授業展開を進めるとしている¹¹⁰⁾。

相模原青陵高校

相模原青陵高校の特色ある教育展開は、「これからの多様な社会の担い手として必要な資質を育成するための幅広い教育内容の提供」を方針とし、幅広い進路希望に対応する教育内容と、普通教科の内容を発展・深化させる教育内容を提供するため、学校必修科目「リベラルベーシック」と特色ある分

野の5つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「多言語と多文化社会系」の「日本語と文化の扉」、「創作と表現系」の「パフォーミングアーツ」、「情報とコミュニケーション系」の「Web ページデザイン」、「くらしと健康系」の「健康と食生活」、「文化と科学系」の「芸術と科学」といったものである（第17表）。

学習指導においては、確かな学力の向上を図るための習熟度別少人数学習や、体験的な学習、課題解決型の学習、発信型の学習など多様な学習の充実に加え、多様な価値観を理解する力や表現力などを備える学習指導などを工夫する。生徒指導等では、文化の違いなど相互の立場を越えて理解し合い、学び合い、誰もが参加できる特別活動を実施するとともに、個別の履修指導、複数担任制、チューター制による進路指導、学習指導やカウンセリング等の相談指導体制の充実などを工夫する。

また、授業展開は90分3限と45分1限の組み合わせを基本とし、地域と協働した体験活動や短期集中による学習活動を設けるなど弾力的な授業展開を進めるとしている。

学校運営組織として多文化社会の理解を深めるための地域における学習センター（CEMLA）の運営も位置付けられている¹¹¹⁾。

第17表 「後期実施計画」の単位制普通科高校における系と主な科目

校名	系（主な科目）
横浜栄	人文系（現代文発展、論説文研究） 社会系（日本史発展、世界近現代史） 自然科学系（数学発展β、郷土の自然） 国際系（英文講読発展、世界地域探究） 生活健康系（スポーツ探究B、芸術鑑賞と教養）
平塚湘風	人文社会系（世界と日本の文化比較、現代文研究） 自然環境系（数学研究、環境の科学） スポーツ・福祉系（応用球技、スポーツライフ） 芸術系（ヴォイスアンサンブル、造形表現） 国際系（英文構造理解、スペイン語） 情報メディア系（プログラミング入門、コンピュータ・ミュージック）
藤沢清流	国際コミュニケーション系（アジア学、鎌倉と日本文化） 環境デザイン系（都市と景観、湘南の自然） 情報マネジメント系（経営学入門、情報ライセンス） 教育・福祉チャレンジ系（教育実践、心理学入門） 表現クリエイティブ系（美術館学入門、ディベート）
相模原青陵	多言語と多文化社会系（日本語と文化の扉、多文化フィールドワーク） 創作と表現系（パフォーミングアーツ、ダンスアンサンブル） 情報とコミュニケーション系 （メディアとコミュニケーション、Web ページデザイン） くらしと健康系（くらしと経済、健康と食生活） 文化と科学系（芸術と科学、文化と科学）
湘南 （定時制）	人文系（日本の文学、新聞を読む） 国際系（時事英語、比較文化） 情報・科学系（数の不思議、コンピュータ活用）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

湘南高校（定時制）

湘南高校（定時制）の特色ある教育展開は、「豊かな社会生活を営むための資質の育成」を方針とし、人文・国際・情報・科学に関する分野において体験的な学習を取り入れた3つの系を設置するとした。その系と主な科目は「人文系」の「日本の文学」、「国際系」の「比較文化」、「情報・科学系」の「数の不思議」といったものである（第17表）。

学習指導においては、少人数学習や習熟度学習等の充実に加え、各自の学習目的や特性に基づいた個別の学習指導の工夫をする。生徒指導等では、ホームルーム編成の工夫や面談体制、担任を中心に入学から卒業まで継続的に指導・助言をする支援体制、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。また、授業展開は45分6限を基本とし、一人ひとりの生活スタイルに応じた学習、学校間連携や課程間併修による学習機会の拡大、夜間のみの履修による4年間での卒業などについて配慮するとしている¹¹²⁾。

コラム3

単位制普通科高校の立ち上げ、活動について

金子 善政（元三浦臨海高等学校長）

神奈川県で単位制普通科高校を語るには神奈川総合高校から始めなければならない。神奈川総合高校は単位制という学年の区分を設けない制度を最大限に活用して、新しい学びのシステムを具現化したパイオニアスクールである。ここでの取組みが高校改革の推進力となり、県立高校改革推進計画の中では単位制普通科高校のモデルとなった。

ここでは横須賀三浦方面単位制普通科高校（現、三浦臨海高校）の立ち上げに関して話したい。この学校は三崎高校と初声高校を統合し、初声高校が施設活用校である。

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦労したこと

再編統合計画の発表は衝撃的であった。発表後、2校の統合はある程度の理解を得られたが、新しく生まれる単位制普通科高校の理解を得ることは大変であった。「生徒が時間割をつくる」—そんなことが出来るのか。「制服がない」・「一斉登校させない」—それで大丈夫なのか。一方では、「統合だから出来ることではないか」を、どの単位制普通科高校でも問われ、関係各校では創意工夫をこらした広報を行った。本校での広報の一つに「新校フォーラム」の開催がある。2校の教職員・PTA、そして地域が一体となったこの活動は新校への期待感を高めた。また、学校の様子や新しい取り組みが新聞に取り上げられるように努めた。新聞記事は地域で話題となり、新校の理解が進むとともに教職員に力を与え、生徒が自信を持つようになった。

2 生徒や教員の変化

生徒や教員が変化した様子に驚かされた活動に「生徒自らが作る校歌」と「研究発表会」がある。新校は生徒が主体となる学校を目指した。そこで頑張っている生徒の情報をみんなで共有し、生徒を信頼して生徒に任せ、出来るまで待つことを基本とした。「生徒自らが作る校歌」は本当にできるのか半信半疑であったので、実際に校歌が出来上がった時は感激した。生徒の持つ力がいかに大きいかを実証した。この取り組みの様子は毎日新聞「新・教育の森」や神奈川新聞で取り上げられた。「研究発表会」は新校開校2年目に開催した新校の研究成果発表会である。生徒が生き生きと三浦臨海高校での生活を語り、大きく成長

した姿が見て取れ、学校の変化を印象付けることができた。

3 地域との関係づくり

地域との協力・連携を重視した。三浦市を始めとするさまざまな方々の協力が得られ、特色ある教育活動が生まれた。オーストラリアのウォーナンブールカレッジとの姉妹校提携は三浦市のみなさんの協力のおかげであった。新しい科目「郷土文学」では三崎白秋研究会、「マリンスポーツ」では地元の方の協力をいただいた。また、NPOとの協働事業として実現したのが太陽光発電装置の設置である。

4 高校改革の成果

高校改革を進めていく中で多様な学びの選択が可能となった。また、開かれた学校づくりも進んだ。高校改革が果たした役割は非常に大きかったと考えている。しかし、振り子が左右に振れるように、現在でも教育のあり方は大きく振れている。教育改革がスタートしたころ、「不易と流行」が話題となった。時代の変化とともに変えていく必要のあるものを追求したのが高校改革であった。今後も折に触れ高校改革を振り返り、教育のあり方を考えていくことが重要であると思う。

2 フレキシブルスクールの設置

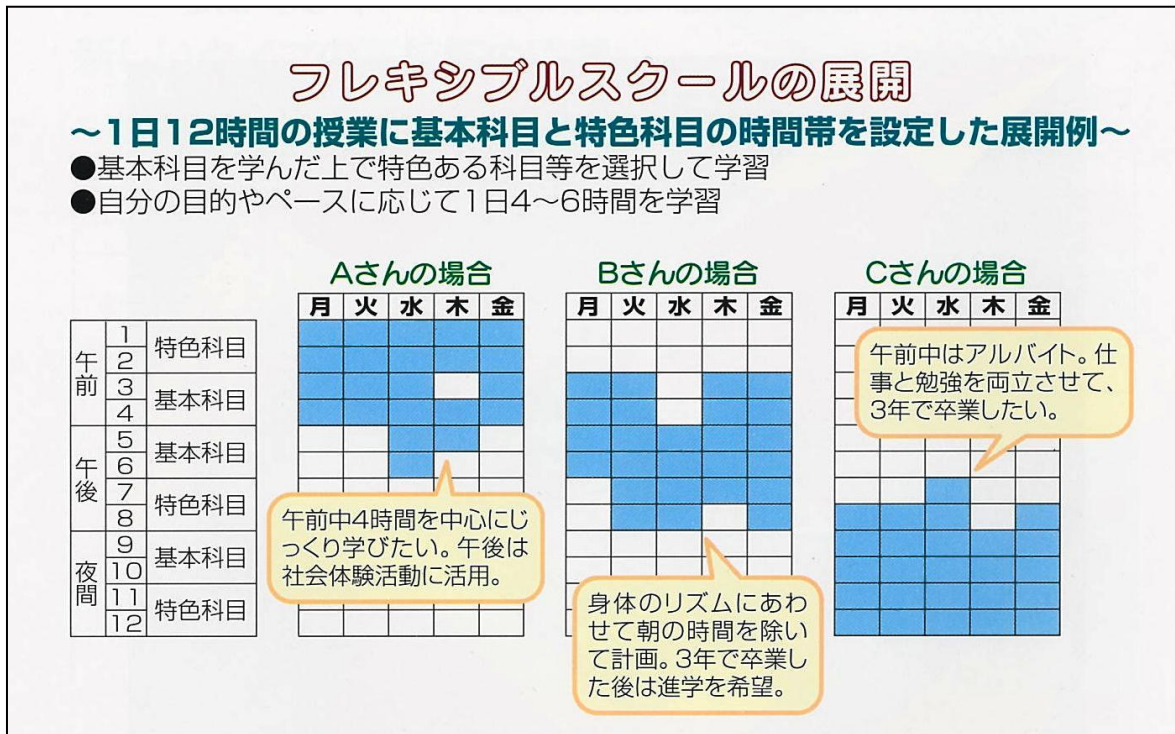
(1) フレキシブルスクールの特色

フレキシブルスクールの概要

フレキシブルスクールは、「一人ひとりのペースでじっくり学ぶ高校」として、生徒個々の生活スタイルや学習ペースに柔軟に対応できるよう、1日8時間や12時間という幅広い授業時間帯を設け、より柔軟な（フレキシブル）学びの仕組みを持つ単位制による普通科高校である。

このフレキシブルスクールは全国で初めての学校であり、神奈川独自の呼称である。自分のペースで学びたい生徒や自分の興味・関心に重点をおいて学びたい生徒、高校を中途退学したがもう一度学びたい生徒等を学習者として想定し、例えば、全日制や定時制といった課程間の区分を超えて科目履修を可能にするなど、可能な限り弾力的な教育活動の実施を目指した。

生徒は1日8時間や12時間の幅広い授業時間帯の中から、午前・午後、また、定時制併置校の場合には夜間を加えた時間帯の中から自分自身の履修計画に基づいて科目を選択して学習する。例えば、12時間の展開では、第6図に示しているとおおり、午前中4時間を中心にじっくり学び、午後は社会体験活動にあてる。あるいは午前中は仕事、午後は学習にあてるなど、自分のペースでじっくりと学ぶことや得意な分野の伸長を図ることができる（第6図）。「推進計画」では、「特定の時間を利用して学ぶことができる定時制のよさと多様な科目の展開など学習ニーズに応じた教育内容を提供する全日制のよさを融合した柔軟な教育の提供」を図り、また、他の高校に学ぶ生徒や県民の一部科目を履修したいという希望にも応える学習センターの機能も備えるとしている¹¹³⁾。



第6図 フレキシブルスクールの概要

(パンフレット「これからの県立高校」より)

(2) フレキシブルスクールの設置

設置の概要

本県のフレキシブルスクールは、「前期実施計画」において3校の設置が計画された。平成15年度に開校した全日制の横浜桜陽高校、平成16年度に開校した全日制・定時制一体型の川崎高校、平成17年度に開校した全日制・定時制・通信制一体型の厚木清南高校である(第18表)¹¹⁴⁾。

第18表 フレキシブルスクールの概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模
横浜中部 〔平成15年度〕	汲沢高校 豊田高校	汲沢高校 敷地	横浜桜陽 高校	全日制 720名 (18学級)
川崎南部 〔平成16年度〕	川崎高校 川崎南高校	川崎高校 敷地	川崎高校	全日制：720名 (18学級) 定時制：140名 (4学級)
厚木海老名愛甲 〔平成17年度〕	厚木南高校 (単独改編)	厚木南高 校敷地	厚木清南 高校	全日制：720名 (18学級) 定時制：280名 (8学級) 通信制：各年度270名募集

「新校設置計画」に示されている基本的コンセプトは、「弾力的な履修形態による教育の提供」、「特色ある教育活動の展開」、「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」、「柔軟な受け入れの推進」の四点である。そのうち、「弾力的な履修形態による教育の提供」とは、生徒が各自の生活スタイルに応じた時間割編成が可能となるよう、各フレキシブルスクールの設置形態を生かして、弾力的な教育課程を提供することである。「特色

ある教育活動の展開」では、各校の方針に基づいて特色ある教育内容を提供する多様な選択科目を「系の科目」としてまとめ、多くの自由選択科目とともに設置する。「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」については、異年齢集団による活動を展開するなどの工夫や、生活面・進路指導におけるガイダンス機能の充実を掲げている。「柔軟な受け入れの推進」では、学校間連携による他校生の受け入れや、中途退学者や進路変更による転学の積極的な受け入れを図るとし、入学者選抜において中途退学者募集の枠を設けるとしている。

教育課程の弾力化として、2学期制による学期ごとの単位認定をはじめ、大学や専修学校などとの連携や技能審査、学校外の学習成果による単位認定を行うなどの弾力化を図るとともに、小集団学習等の学習の充実を図るとする。また、フレキシブルスクールの特色の一つである「学習センター機能の提供」では、学校間連携による他校生や聴講生の受け入れ、社会人が生徒と共に学ぶ生涯学習講座の設置などを行うとしている。

以下、各校の教育課程や学習指導、生徒指導など教育活動の特色について、「新校設置計画」等を基に整理する。

横浜桜陽高校

横浜桜陽高校は本県初のフレキシブルスクールとして平成 15 年 4 月に開校した。1 日 8 時間の幅の授業時間帯から、各自の進路希望や特性、興味・関心に基づき科目を選択し履修できるとする。

特色ある教育展開は、「教育の情報化の推進と自己の生き方を探求する活動の展開」を方針とし、教育の情報化の推進の中で、すべての科目にわたり、自ら課題を解決し、表現する能力を高めるため、情報機器やインターネットを活用した教育を展開する。また、自己の生き方を探求する活動への支援を図る観点から、情報、環境などの分野や教養的分野の教育内容を提供する 6 つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「情報ネットワーク系」の「パソコンライフ」、「環境サイエンス系」の「環境科学」、「福祉サポート系」の「福祉基礎」、「健康フィットネス系」の「フィットネス」、「国際コミュニケーション系」の「海外事情」、「教養アーツ系」の「演劇体験」といったものである（第 19 表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、情報機器やインターネット、教育用デジタルコンテンツなどの活用による学習指導の工夫をする。生徒指導等では、生徒が希望に応じて教員を選び、個別に相談や支援を受けることができるチューター制の実施や、異年齢集団による特別活動を行うこと、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は 90 分 4 限を基本とし、授業時間帯を午前（2 時限）・午後（2 時限）という複数のゾーンに区分し、その区分の中で基本的科目、特色科目の履修が可能となるよう配慮をする。

施設設備については、弓道場の新設や、職員室の壁をガラス張りにする（透明化）などの整備を行っている¹¹⁵⁾。

川崎高校

川崎高校は全日制と定時制を一体化したフレキシブルスクールである。多様な学習ニーズや生活スタイルに応じた学習ができるよう、9時から17時までの全日制の時間帯と13時30分から21時10分までの定時制の時間帯を合わせた1日12時間の幅の授業時間帯から、各自の進路希望や特性、興味・関心に基づき、科目を選択し履修できるとする。

特色ある教育展開は、「深化や拡充を図ることをめざした学習内容の提供」を方針とし、一つのテーマについての応用的・発展的な教育内容を提供する、特色ある分野の7つの系を設置するとした。その系と主な科目は、「国際系」の「比較文化」、「芸術系」の「オーケストラ」、「環境系」の「環境と生態系」、「科学系」の「ビジュアルサイエンス」、「人文系」の「日本古典芸能入門」、「生活系」の「健康な生活」、「福祉系」の「社会福祉基礎」といったものである（第19表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、大学からの講師の派遣や遠隔授業の実施など大学や研究機関と連携した教育展開を図るなどを工夫する。生徒指導等では、チューターの配置や、異年齢集団による特別活動の実施、キャリアガイダンス、カウンセリング等の支援体制の充実などを工夫する。授業展開は90分6限を基本とし、必要に応じて45分の展開を取り入れ、午前・午後・夜間という複数のゾーンに区分した授業時間帯の中で基本的科目、特色科目の履修が可能となるよう配慮をする。また、定時制課程の聴講生を単位認定できる科目聴講生として位置付けるなど、学習センターの機能を提供している¹¹⁶⁾。

厚木清南高校

厚木清南高校は全日制と定時制及び通信制を一体化したフレキシブルスクールである。全日制・定時制・通信制の3課程の併置を生かし、多様な学習ニーズや生活スタイルに応じた学習ができるよう、9時から16時30分までの全日制の時間帯と13時15分から20時50分までの定時制の時間帯を合わせた1日12時間の幅の授業時間帯から、各自の進路希望や特性、興味・関心に基づいた科目選択と、通信教育による科目選択による履修や、全日制・定時制・通信制の課程相互の履修も可能とする。

特色ある教育展開は、「幅広く総合的な学習や特色分野の深化を図る学習内容の提供」を方針とし、文化と社会、自然と科学など多方面にわたる分野の科目を6つの系に位置付け、幅広く総合的に学ぶことや特色分野を深く学ぶ教育内容を提供するとした。その系と主な科目は、「文化・社会系」の「日本語の世界」、「自然・科学系」の「都市と自然」、「健康・福祉系」の「スポーツ理論」、「生活・芸術系」の「身体表現」、「情報・ビジネス系」の「日本経済入門」、「国際理解系」の「実用英語」といったものである（第19表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、専門性をより深める内容や生活に即した身近な学習内容を提供するなど、一人ひとりの興味・関心に応じた指導の充実を図る。生徒指導等では、チューター制の実施や、教職員、保護者、スクールカウンセラー等による協力体制の充実、異年齢集団による特別活動の実施、キャリアガイダンス、カウンセリングなど支援体制の充実などを工夫する。授業展開は90分6限を基本とし、授業時間帯を午前・午後・夜間に区分したそれぞれのゾーンの中で基本的科目、特色科

目の履修が可能となるよう配慮をする。また、定時制・通信制課程の聴講生を単位認定できる科目聴講生として位置付けるなど、学習センターの機能を提供するとしている¹¹⁷⁾。

第 19 表 フレキシブルスクールの系と主な科目

校名	系（主な科目）
横浜桜陽	情報ネットワーク系（パソコンライフ、マルチメディアの活用論） 環境サイエンス系（環境科学、エコライフ） 福祉サポート系（福祉基礎、福祉援助技術） 健康フィットネス系（フィットネス、コミュニケーショントレーニング） 国際コミュニケーション系（海外事情、中国語入門） 教養アーツ系（日本文化探求、演劇体験）
川崎	国際系（多文化都市川崎、比較文化） 芸術系（オーケストラ、陶芸） 環境系（環境と生態系、栽培実習） 科学系（ビジュアルサイエンス、コンピュータの自作と設定） 人文系（日本古典芸能入門、詩歌表現） 生活系（生活実践、健康な生活） 福祉系（社会福祉基礎、社会福祉実習）
厚木清南	文化・社会系（日本語の世界、地域研究） 自然・科学系（都市と自然、科学の歴史） 健康・福祉系（スポーツ理論、トレーニング理論と実践Ⅰ・Ⅱ） 生活・芸術系（身体表現、ハーモニカ） 情報・ビジネス系（日本経済入門、プログラミング） 国際理解系（実用英語、スペイン語入門）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

コラム 4

フレキシブルスクールの立ち上げ、活動について

畠山 利子（元川崎高等学校長）

平成 11 年 8 月 16 日に神奈川県 の 県立高校改革推進計画（前期五ヵ年計画）が明らかになった。その再編統合校で立ち上げの任を担うとは思ってもよらず、当時の責任の重さと緊張感は計り知れないものであった。

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦労したこと

全・定を一体化した 12 時間授業展開の全国初の形態であるフレキシブルスクールを創るにあたっては、さまざまな問題を解決しなければならず、それぞれの部署の教職員が全力をあげて知恵を絞り対応してきたことが、川崎高校研究紀要第 1 号「フレキシブルスクールとは何か」によって明確に認識できる。

神奈川県 の 高校改革推進の仕方は、「教職員が各学校の在校生を教育しながら、新校のスタッフとなって業務を遂行する」という方法をとったため、今いる生徒を疎かにせず、尚且つ「今」を引きずらずに、ダイナミックに新しい学校を創ることを主眼にして事を

進めていった。しかし、2校3課程の統合の中での学校間・課程間の温度差は大きく、会議のたびに侃々諤々議論沸騰、それでいて何も決まらないという状態が続いた。その解決策として、新校準備委員会の下部組織としてワーキンググループを作り、全教職員がそのグループの一員として新校設置の任を担う体制とした。徐々にではあるが一体感は強まり、新校創造へのモチベーションは高まった。さらには、保護者・中学校関係・地域・同窓会・塾関係への広報も頻繁に行い、理解を深めてもらう努力を怠らなかった。

2 生徒や教員の変化

なかなか理解が得られない2校3課程統合での新校創りでは、教師における交換授業、生徒間の授業交流、制服・校歌、文化祭の名称、食堂業者の選定、食堂の名前決めなど、両校の教職員が頻繁に交流できる場を設けた。特に事務室同士は早くから両校を行き来して連携を図っていた結果、川崎南高校から川崎高校へ、川崎高校旧校舎から新校舎へと二度の引越しもスムーズに行うことができた。

教職員は次から次へと押し寄せる仕事を躊躇する間もなく、こなしていかなければならない。その結果、それができてしまう力を自覚する者が増え、すこぶる多忙ではあったが、むしろ楽しんで仕事に携わる姿勢も見られた。(潜在能力の発揮)

生徒は生徒で、自分で時間割作成をるところから始まるので、いやでも高校卒業後の自分を見据えることとなる。そこから、多くの生徒には積極的に物事を進めようとする態度が涵養された。特に注目に値するのが、定時制課程の生徒たちである。問題を抱えて入ってきた生徒たちが、全日制の生徒と机を並べて決して引けをとらない勉学ぶりをみせてくれた。またさまざまな学びへも積極的に手をあげ、部活動への参加も多く、生き生きと学校生活を送っていたのが印象的であった。

3 高校改革の成果

高校改革によって、各高校が自校の特色を明確に打ち出し、実践し、県民への広報が徹底してきたのは大きな成果としてあげられる。

しかし、10年以上たった現在、県教委と学校、保護者、地域がそれこそ一体となって進めてきた改革当初のエネルギーが薄れてきて、最初の理念の継続が難しくなっているように思える。生徒にとって実のあるカリキュラムが縮小されたり、教員のモラルが低下してきていたりするのを見、聞くにつけ残念に思う。特に新タイプ校においては、人的・財政的援助は欠かせない。その解決へ向けての努力は県・学校双方にかかっていると考える。

知力と品位のある神奈川の高校生を育てる教育を切に望む。

3 総合学科高校の設置

(1) 本県初の総合学科高校

総合学科の導入

総合学科高校については、平成5年2月、高等学校教育の改革の推進に関する会議が報告した「高等学校教育の改革の推進について(第四次報告) —総合学科について(報告)—」において、教育の特色や教育課程等が示された。教育課程は、高等学校必修科目、「産業社会と人間」、「情報に関する基礎的科目」及び「課題研究」といった原則履修科目のほか、総合選択科目や自由選択科目によ

り構成され、その教育内容・方法等については各学校で創意工夫することが望ましいとしている。また、単位制による教育課程編成、学校間連携の推進、専修学校における学習成果や技能審査の成果の単位認定などを活用する。さらに、これらの活用による教育課程の弾力化をはじめ、多面的な角度からの評価により「いわゆる偏差値を尺度とする高等学校間の序列意識を打破」するきっかけとなること、さまざまな科目の開設による生涯学習機関としての役割が期待されるとしている¹¹⁸⁾。

こうした報告を踏まえ、文部省（現、文部科学省）は、平成5年3月に「高等学校設置基準」を一部改正し、第5条3項において「普通教育及び専門教育の選択履修を旨として総合的に施す学科」として総合学科を位置付け、総合学科の設置を推進することとした。

大師高校への設置 の経緯

本県では、平成8年4月に本県初の総合学科が大師高校に設置された。それまで普通科高校であった大師高校に総合学科を設置した経緯は、まず平成6年度、県教育委員会から総合学科研究指定校の委託を受けたことに始まる。大師高校では、平成6年6月に「総合学科設置検討委員会」（以下、「検討委員会」という。）を設けて研究を始め、総合学科としての理念づくりや系列の作成、施設の検討などを行った。

検討委員会では、『不本意入学』『目的意識の欠如』『偏差値重視の価値観』『家庭・地域の教育力の減退』等を本校入学生徒の実情の中心として捉え、その克服のため基礎学力の充実と生徒の意欲・興味・関心を引き出し、授業に生き生きと参加できる条件整備・授業内容の見直し等の必要性を確認し、その上で、「総合学科」設置の趣旨や「総合学科」に期待される進学者像、原則履修科目「産業社会と人間」の役割などが、大師高校にとって有効な教育活動であるとの結論に至ったとしている¹¹⁹⁾。

以後、この理念に基づき、「企画調整委員会」（検討委員会からの名称変更）を中心に、校内組織の準備や、「産業社会と人間」をはじめ多様な科目の開講準備などの教育内容の準備、施設設備などの条件整備、中学生等への広報活動などが進められ、平成8年4月に本県初の総合学科高校に生まれ変わった¹²⁰⁾。

大師高校の教育 活動の特色

大師高校の「総合学科」の設置趣旨は、「神奈川県“ふれあい教育”の理念に学びながら、平和・人権・環境・福祉・国際理解教育の実践をすすめる」ために、教育活動において「自己発見」と「自己開発」を促す活動を行い、生涯学習の基礎の確立を目指すこととされている¹²¹⁾。

また、教育課程の編成については、普通科目と専門科目を総合的に選択して学べることとし、①人文科学系列、②地域国際系列、③環境科学系列、④情報ビジネス系列、⑤スポーツ系列、⑥生活福祉系列の6系列に、選択科目を設置した（第20表）¹²²⁾。

第 20 表 大師高校 総合学科設置当初の系列

系列	系列の趣旨（主な科目）
人文科学系列	文学・歴史などテーマを絞った学習（文学研究）
地域国際系列	地域から「国際社会」を考える（ハングル）
環境科学系列	環境問題を社会・自然科学の両面から考える（神奈川の環境問題）
情報ビジネス系列	コンピュータやビジネス全般について学習（簿記情報通信）
スポーツ系列	一生を通じたスポーツとの関わりについて学習（ボウリング）
生活福祉系列	障害者・高齢者福祉、介護や衣食住全般にわたる「生活すること」について学習（看護概論）

*平成8年度「学校案内」を基に作成

総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」については、「職業と生活」、「我が国の産業の発展と社会の変化」、「進路と自己実現」の3つの大単元からなり、学習指導上の特色として、入学年次での履修、地域社会との結び付きを重視した学習活動、生徒の主体的な活動の重視及びティーム・ティーチングによる指導が示されている¹²³⁾。この「産業社会と人間」について、大師高校ではその理念と内容を次のように定めた。一点目は、「産業社会と人間」の実践が大師高校の「学校改革の第一歩となる」こと、二点目は、体験・実習・討論を重視した授業実践により、授業のあり方を変えていくこと、三点目が地域との連携である¹²⁴⁾。この「産業社会と人間」の授業実践により、「自分さがしを始める生徒たちの登場、生徒と教員と一緒に学べる関係の日常化、総合学科における授業改革のさきがけなどの成果」を生み出してきたという¹²⁵⁾。

また、平成8年3月に川崎市職員や町内会長等をメンバーとして発足した「大師高校の総合学科を考える会」が大師高校の教育活動を支える役割を果たした。この「考える会」の活動は、系列のあり方や総合選択科目の考え方などに大きな影響を与えるとともに、「産業社会と人間」の授業展開の中で見学場所や体験実習場所の選定や、講師派遣などに大きな役割を担ってきた¹²⁶⁾。

（2）総合学科高校の設置拡大

「前期実施計画」による総合学科高校

平成11年11月策定の「推進計画」においては、「自分さがしをめざす総合学科」と位置付けられ、総合学科の設置拡大を図るとしている。全県的なバランスを考慮し、「前期実施計画」においては、全日制6校、定時制1校を新たに設置するとした。

そのうち、全日制は、平成15年度に開校した相模原総合高校、平成16年度に開校した鶴見総合高校、横浜清陵総合高校、金沢総合高校、麻生総合高校、藤沢総合高校の6校である（第21表）。また、定時制課程の総合学科は、平成17年度に相模台工業高校と相模原工業技術高校が統合して神奈川総合産業高校として再編されるとともに、相模台工業高校の定時制課程が、神奈川総合産業高校の定時制課程において、総合学科に改編された（第22表）¹²⁷⁾。

第 21 表 総合学科高校の概要（全日制）

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
相模原北部津久井〔平成15年度〕	大沢高校 (単独改編)	大沢高校 敷地	相模原総合 高校	720名 (18学級)	
横浜東部 〔平成16年度〕	平安高校 寛政高校	平安高校 敷地	鶴見総合 高校	720名 (18学級)	
横浜南部 〔平成16年度〕	清水ヶ丘高校 大岡高校	清水ヶ丘 高校敷地	横浜清陵 総合高校	720名 (18学級)	
横浜臨海 〔平成16年度〕	富岡高校 東金沢高校	富岡高校 敷地	金沢総合 高校	720名 (18学級)	
川崎北部 〔平成16年度〕	柿生西高校 柿生高校	柿生西高校 敷地	麻生総合 高校	720名 (18学級)	
鎌倉藤沢 〔平成16年度〕	長後高校 藤沢北高校	長後高校 敷地	藤沢総合 高校	720名 (18学級)	

第 22 表 総合学科高校の概要（定時制）

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
相模原南部 〔平成17年度〕	相模台工業高 校(単独改編)	相模台工業 高校敷地	神奈川総合 産業高校	280名 (8学級)	全日制は 専門高校

各校の「新校設置計画」に示されている総合学科高校の設置の目的は、将来の進路選択を視野に入れ自己の適性を見いだし、進路への自覚を深めることができる教育の展開、及び学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を重視し、個性を生かした主体的な選択学習が可能となる柔軟な教育の展開である。

基本的コンセプトは、いずれの学校も「個を生かす多彩な教育の提供」、「特色ある教育活動の展開」、「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」の三点である。そのうち、「個を生かす多彩な教育の提供」では、一人ひとりの進路希望や学習希望に応じた学習ができるよう、多様な選択科目を設置するとともに、単位制による弾力的な教育課程を編成する。「特色ある教育活動の展開」については、体験学習を取り入れた学習内容の提供と、各校の方針に基づいて普通科目と専門科目を主体的な選択により学ぶことができる総合選択科目を「系列」の科目としてまとめ設置する。「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」ではホームルーム編成の工夫や、特色ある学校行事の活性化、個別の学習や生活・進路指導におけるガイダンス機能の充実を掲げている。

教育課程では、必修科目に加え、原則必修科目の「産業社会と人間」等、総合選択科目及び自由選択科目を設置する。また、2学期制による学期ごとの単位認定をはじめ、大学や専修学校などとの連携や技能審査、学校外の学習成果による単位認定を行うなどの弾力化を図り、小集団学習等の充実、個別指導の実施などを工夫としている。

以下、各校の教育課程や学習指導、生徒指導など教育活動の特色について、「新校設置計画」等を基に整理する。

相模原総合高校

相模原総合高校の特色ある教育展開は、「体験や実習・実技を重視した教育活動の展開と社会に求められる資質の育成」を方針とし、これからの社会に必要な資質を育成するための教育内容を提供する6つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「健康スポーツ系列」の「スポーツトレーナー学」、「情報ネットワーク系列」の「ハードウェア構成技術」、「生活福祉系列」の「社会福祉演習」、「環境数理系列」の「生活科学」、「人文社会系列」の「時事問題」、「国際文化系列」の「外国事情」といったものである（第23表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、スポーツ活動や情報ネットワークの活用による体験的、実習的活動を重視し、自らの興味・関心に応じて意欲的な取組みが可能となる学習指導の工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、複数担任制、さまざまな個性を相互に尊重し自己の確立を目指すための特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は90分3限を基本としている¹²⁸⁾。

鶴見総合高校

鶴見総合高校の特色ある教育展開は、「体験活動を重視するとともに豊かな社会生活につながる教育活動の展開」を方針とし、国際理解など特色ある実習・実技科目を幅広く設置し、身近に即した教育内容を提供する体験学習重視の5つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「国際文化系列」の「国際理解入門」、「造形・表現系列」の「陶芸」、「情報・ビジネス系列」の「文書処理演習」、「健康・福祉系列」の「福祉とくらし」、「環境科学系列」の「生活と環境」といったものである（第23表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、体験的、実習的な教育活動を展開し、国際交流活動による社会性や表現活動による創造性、豊かな感性を育むことができるよう工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹²⁹⁾。

横浜清陵総合高校

横浜清陵総合高校の特色ある教育展開は、「生涯にわたって学習する態度の育成を図る教育内容の提供」を方針とし、生涯にわたり学ぶ意欲をもち、自らの課題を主体的に解決する態度を育むことができるよう、生涯学習の基礎を培う6つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「情報科学系列」の「ネットワークシステム」、「生涯スポーツ系列」の「スポーツⅡ」、「芸術表現系列」の「映像メディア表現」、「ライフデザイン系列」の「基礎介護」、「自然科学系列」の「生活の中の自然科学」、「人文国際系列」の「世界の旅」といったものである（第23表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、生涯学習の基礎を培い学習意欲の継続を図るため、生活に即した学習内容の提供や地域との連携により、学習内容を幅広い視野から考えることができる工夫をする。また、「産業社会と人間」での学習を踏まえ、学校設定科目「コミュニケーション」を設置し、コミュニケーション能力の育成を図る。

生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、複数担任制、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹³⁰⁾。

金沢総合高校

金沢総合高校の特色ある教育展開は、「社会生活とのかかわりを重視した教育活動の展開」を方針とし、自ら問題意識をもち、豊かな社会を形成する意欲の育成をめざし、人間関係など幅広い視野を培う分野で特色ある教育活動を展開する6つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「人間・福祉系列」の「心理学入門」、「社会系列」の「地図利用と地域調査」、「文化・スポーツ系列」の「アンサンブル」、「自然・環境系列」の「自然環境研究Ⅰ」、「情報系列」の「データ処理Ⅰ」、「国際系列」の「スペイン語入門」といったものである（第23表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、家庭や地域・社会、中学校・大学等との連携による学習活動を進めるとともに、基礎学力の充実や問題解決能力・コミュニケーション能力を育てることができる工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹³¹⁾。

麻生総合高校

麻生総合高校の特色ある教育展開は、「社会や職業とのかかわりを重視した教育内容の提供」を方針とし、これからの社会や職業に求められる情報技術や国際的視野などの視点をもつ豊かな社会性の育成を目指し、体験学習を重視した教育内容を提供する6つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「情報・ビジネス系列」の「ビジネス基礎」、「人間・社会系列」の「心理学研究」、「表現・創造系列」の「陶芸」、「健康・福祉系列」の「社会福祉実習」、「自然・環境系列」の「里山と生物」、「地域・国際系列」の「一年間世界一周」といったものである（第23表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、必修科目において、生徒それぞれの到達度に応じて主体的に内容を選択できるよう配慮することや、社会や職業とのかかわりを重視した地域・社会との連携による学習展開を工夫し、望ましい職業観育成のための積極的なインターンシップの推進を図る工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとの少人数のホームルーム編成、ホームルーム活動を重視した指導、さまざまな個性を相互に尊重し自己の確立を目指すための特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹³²⁾。

藤沢総合高校

藤沢総合高校の特色ある教育展開は、「地域の特性を生かした教育の展開と豊かな人間性の育成」を方針とし、地域の産業や環境の特性を生かし、体験的な学習を積極的に取り入れ、人間関係づくりなど豊かな人間性、社会性を育む学習内容を提供する6つの系列を設置する。その系列と主な総合選択科目は、「生活科学系列」の「健康と生活」、「環境科学系列」の「環境入門」、「人間科学系列」の「レッツ・コミュニケート」、「ビジネス系列」の「ビジネス基礎」、「生活福祉系列」の「社会福祉基礎」、「人文国際系列」の「国際理解」といったものである（第23表）。

学習指導においては、小集団学習等の学習の充実に加え、体験学習、実習、学校外施設を活用した学習活動の重視や、よりよい人間関係の形成や国際的な視野を身につけるため、他者との交流活動を活発に行うことができるよう学習指導の工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、さまざまな個性を相互に尊重し自己の確立を目指すための特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は 50 分 6 限を基本としている¹³³⁾。

神奈川総合産業高校 (定時制)

神奈川総合産業高校(定時制)の特色ある教育展開は、「科学技術分野をはじめとする多様な教育内容の提供」を方針とし、科学技術の視点を踏まえた工業分野、情報分野などの教育内容を提供する 4 つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「工業技術系列」の「工業技術基礎」、「情報技術系列」の「パソコンを作ろう」、「自然科学系列」の「地球環境科学」、「人文国際系列」の「文章表現」といったものである(第 23 表)。

学習指導においては、小集団学習等の学習の充実に加え、全日制の総合産業高校との連携を視野に入れた学習指導を工夫する。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は 90 分 3 限を基本とし、単位認定に当たっては、課程間併修や他校との学校間連携による認定や、実務代替、大学入学資格検定科目(現、高等学校卒業程度認定試験)合格による単位認定も行う。さらに、社会人を一部の科目を履修する聴講生として受け入れ、入学以前に聴講し修了した科目の単位を、入学後に認定するなどの弾力化を図るとしている¹³⁴⁾。

第 23 表 「前期実施計画」の総合学科高校における系列と主な総合選択科目

校名	系列（主な総合選択科目）
相模原総合	健康スポーツ系列（スポーツⅡA、スポーツトレーナー学） 情報ネットワーク系列（ハードウェア構成技術、インターネット基礎） 生活福祉系列（社会福祉演習、幼児教育） 環境数理系列（環境概論、生活科学） 人文社会系列（生活国語、時事問題） 国際文化系列（国際文化概論、外国事情）
鶴見総合	国際文化系列（国際理解入門、鶴見・川崎地域研究） 造形・表現系列（陶芸、コンピュータグラフィックス） 情報・ビジネス系列（文書処理演習、簿記） 健康・福祉系列（福祉とくらし、いのち・性） 環境科学系列（生活と環境、自然観察入門）
横浜清陵総合	情報科学系列（情報と表現、ネットワークシステム） 生涯スポーツ系列（スポーツⅡ、フィットネストレーニング） 芸術表現系列（映像メディア表現、写真表現基礎） ライフデザイン系列（基礎介護、健康ライフ） 自然科学系列（生活の中の自然科学、人間生活と環境） 人文国際系列（現代文解析、世界の旅）
金沢総合	人間・福祉系列（心理学入門、社会福祉基礎） 社会系列（映画・ドラマから見た社会学、地図利用と地域調査） 文化・スポーツ系列（アンサンブル、体づくり運動） 自然・環境系列（作物、自然環境研究Ⅰ） 情報系列（ハードウェアとネットワーク基礎、データ処理Ⅰ） 国際系列（地域の国際交流、スペイン語入門）
麻生総合	情報・ビジネス系列（ビジネス基礎、表計算ソフト入門） 人間・社会系列（心理学研究、暮らしの中の法律・経済） 表現・創造系列（陶芸、リトミックⅠ・Ⅱ） 健康・福祉系列（社会福祉実習、スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ） 自然・環境系列（里山と生物、ガーデニングと園芸） 地域・国際系列（一年間世界一周、歌と映画で学ぶ英語）
藤沢総合	生活科学系列（健康と生活、フードデザイン） 環境科学系列（環境入門、自然に親しむ） 人間科学系列（レッツ・コミュニケーション、言葉と人間） ビジネス系列（ビジネス基礎、マルチメディア表現） 生活福祉系列（社会福祉基礎、社会福祉援助技術） 人文国際系列（国際理解、日本の伝統文化）
神奈川総合産業 （定時制）	工業技術系列（工業技術基礎、自動車工学） 情報技術系列（マルチメディアの活用、パソコンを作ろう） 自然科学系列（地球環境科学、地球生物のあゆみ） 人文国際系列（文章表現、世界の旅）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

(3) 「後期実施計画」における設置拡大

「後期実施計画」による総合学科高校

総合学科高校は「前期実施計画」の実施により、全日制課程において6校、定時制課程で1校が設置された。「後期実施計画」では、第24・25表に示すとおり、全日制課程においては、平成20年度開校の横浜緑園総合高校、秦野総合高校、平成21年度開校の座間総合高校、吉田島総合高校の4校が設置された。定時制課程では、平成19年度に磯子工業高校・向の岡工業高校・平塚商業高校の定時制課程を総合学科へ改編し、平成20年度には秦野総合高校の定時制課程に総合学科を設置した（第24・25表）¹³⁵⁾。

第24表 総合学科高校（全日制）の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横浜市泉区 〔平成20年度〕	岡津高校 和泉高校	岡津高校 敷地	横浜緑園 総合高校	720名 (18学級)	
秦野市 〔平成20年度〕	秦野南が丘高校 大秦野高校	秦野南が丘 高校敷地	秦野総合 高校	720名 (18学級)	定時制 併置
座間市 〔平成21年度〕	栗原高校 ひばりが丘高校	栗原高校 敷地	座間総合 高校	720名 (18学級)	
開成町 〔平成22年度〕	吉田島農林高校 (単独改編)	吉田島農林 高校敷地	吉田島 総合高校	600名 (15学級)	

第25表 総合学科高校（定時制）の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横浜市磯子区 〔平成19年度〕	磯子工業高校 (単独改編)	磯子工業 高校敷地		280名 (8学級)	
川崎市多摩区 〔平成19年度〕	向の岡工業高校 (単独改編)	向の岡工業 高校敷地		280名 (8学級)	
平塚市 〔平成19年度〕	平塚商業高校 (単独改編)	平塚商業 高校敷地		280名 (8学級)	
秦野市 〔平成20年度〕	秦野南が丘高校 大秦野高校	秦野南が丘 高校敷地	秦野総合 高校	280名 (8学級)	全日制 併置

「後期実施計画」における総合学科高校の設置の目的は、「前期実施計画」時と同様、将来の進路選択を視野に入れ自己の適性を見だし、進路への自覚を深めることができる教育の展開、及び学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を重視し、個性を生かした主体的な選択学習が可能となる柔軟な教育の展開である。

基本的コンセプトは、横浜緑園総合高校・秦野総合高校・座間総合高校・吉田島総合高校の全日制4校と向の岡工業高校・平塚商業高校・秦野総合高校の定時制3校は、いずれも「個を生かす多彩な教育の提供」、「特色ある教育活動の展開」、「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」の三点である。「個を生かす多彩な教育の提供」については、多様な選択科目の設置や単位制による弾力的な教育課程を編成するとし、「特色ある教育活動の展開」については、各校の方針に基づいて特色ある教育内容を提供する多様な総

合選択科目を、「系列」としてまとめ、多くの自由選択科目とともに設置するとしている。「特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実」はホームルーム編成の工夫や、特色ある学校行事の活性化、個別の学習や生活面・進路指導におけるガイダンス機能の充実を掲げている。

磯子工業高校（定時制）については「個を生かす多彩な教育の提供」、「特色ある教育活動の展開〈共学〉」、「心の教育を推進する特別活動の活性化〈信頼〉」、「社会に生きる力の育成とガイダンス機能の充実〈勤労〉」の四点を基本的コンセプトとしている。

また、2学期制による学期ごとの単位認定をはじめ、大学や専修学校等の連携や技能審査、学校外の学習成果による単位認定を行うなどの教育課程の弾力化を図り、小集団学習等の充実、個別指導の実施などを工夫するとしている。

以下、各校の教育課程や学習指導、生徒指導など教育活動の特色について、「新校設置計画」等を基に整理する。

横浜緑園総合高校

横浜緑園総合高校の特色ある教育展開は、「体験活動や地域連携を重視した教育活動を展開」することを方針とし、地域社会などとの連携による体験的な学習を積極的に取り入れた自然環境などの分野の学習内容を提供する6つの系列を設置する。その系列と主な総合選択科目は、「自然環境系列」の「自然観察」、「生活福祉系列」の「社会福祉援助技術」、「文化教養系列」の「演劇表現」、「国際理解系列」の「グローバルイシュー」、「情報ビジネス系列」の「Web入門」、「健康スポーツ系列」の「コンディショニングプラン」といったものである（第26表）。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、体験活動や地域との連携による活動の重視、各種資格取得への意識を高める指導の充実を図る。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は90分3限と45分1限の組み合わせを基本としている¹³⁶⁾。

秦野総合高校

（全日制・定時制）

秦野総合高校の全日制課程の特色ある教育展開は、「生涯にわたって学習する態度の育成を図る教育内容の提供」を方針とし、自己の生き方・あり方について考え、勤労観・職業観、社会を生き抜く諸能力を身につけることができるよう、生涯スポーツなどの分野の学習内容を提供する6つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「生涯スポーツ系列」の「スポーツマネジメント理論Ⅰ」、「造形表現系列」の「声楽」、「自然環境系列」の「天文学基礎」、「生活福祉系列」の「被服製作」、「人文国際系列」の「茶道」、「情報科学系列」の「映像編集」といったものである（第26表）。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、体験的、実習的な学習展開を図り、地域交流活動による社会性や表現活動による創造性、豊かな感性を育成する学習指導を工夫する。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は90分4限を基本とし、全日制と定時制の課程相互の課程間併修により学習機会の拡大を図っている。

一方、定時制課程の特色ある教育展開も、全日制課程と同様に「生涯にわたって学習する態度の育成を図る教育内容の提供」を方針とし、基礎学力の定着を図り、一人ひとりの勤労観・職業観、社会を生き抜く諸能力を育むため、自然環境などの分野の学習内容を提供する4つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「自然環境系列」の「電気のふしぎ」、「生活福祉系列」の「家庭看護・福祉」、「人文国際系列」の「異文化理解」、「情報科学系列」の「パソコン入門」といったものである（第26表）。

学習指導においては、小集団学習等の充実に加え、体験的、実習的な学習展開、全日制課程との連携を視野に入れた学習指導などを工夫する。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団やテーマ選択別による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は45分6限を基本とし、全日制と定時制の課程相互の課程間併修により学習機会の拡大を図るとしている¹³⁷⁾。

座間総合高校 座間総合高校の特色ある教育展開は、「国際理解教育の推進とともに体験的な学習や発表型の学習を取り入れた教育活動の展開」を方針とし、これからの国際社会に対応できるよう、国際教養など幅広い分野の学習内容を提供する5つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「インターナショナル・リベラル・スタディーズ系列」の「時事問題」、「ITサイエンス系列」の「情報倫理」、「エコロジー系列」の「人間生活と環境」、「ライフデザイン系列」の「発達と保育」、「プレゼンテーション系列」の「プレゼンテーション」といったものである（第26表）。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、国際社会と積極的に関わられるよう、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を育成する学習指導の工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団やテーマ選択別による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹³⁸⁾。

吉田島総合高校 吉田島総合高校の特色ある教育展開は、「体験学習を重視するとともに豊かな社会生活につながる教育活動の展開」を方針とし、これまでの農業分野の教育を踏まえながら、豊かな社会生活を営むことができるよう、身近な生活に即した教育内容を提供することである。そのため、学校必修科目である「環境と食・農」と、体験学習重視の5つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「人文国際系列」の「文学に親しむ」、「科学・情報系列」の「数学パズル探究」、「ライフデザイン系列」の「食品製造」、「園芸デザイン系列」の「園芸入門」、「地域環境系列」の「土木に親しむ」といったものである（第26表）。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、体験的、実践的な学習展開を図り、国際交流活動による社会性や表現活動による創造性、豊かな感性を育成する学習指導の工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団やテーマ選択別による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は45分7限を基本としている¹³⁹⁾。

**磯子工業高校
(定時制)**

磯子工業高校(定時制)の特色ある教育展開は、「工業技術分野をはじめとする幅広い教育内容の提供」を方針とし、「工夫と創造」によるものづくりの視点を踏まえた特色ある分野や、多様な学習ニーズ、進路希望等に応じた教育内容を提供することである。そのため、学校必修科目である「初歩のものづくり」と、体験的・実践的学習を重視した4つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「工業技術系列」の「ものづくりの技術A」、「情報技術系列」の「やさしいプログラミング」、「自然科学系列」の「身近な科学」、「人文国際系列」の「国際政治入門」といったものである(第26表)。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、全日制との連携を視野に入れた学習指導の工夫を図る。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は45分6限を基本とし、全日制・定時制相互の課程間併修により、学習機会の拡大を図るとしている¹⁴⁰⁾。

**向の岡工業高校
(定時制)**

向の岡工業高校(定時制)の特色ある教育展開は、「科学技術やものづくりの視点に立つ幅広い教育内容の提供」を方針とし、地域社会、企業等との連携を図りつつ、科学技術やものづくりの視点を踏まえた工業、情報などの分野の学習内容を提供することである。そのため、学校必修科目である「体験学習」と、体験的・実践的学習を重視した3つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「工業技術系列」の「やってみよう初めての工業」、「情報技術系列」の「コンピュータの基礎」、「人文国際系列」の「日本と世界の旅」といったものである(第26表)。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、全日制との連携を視野に入れた学習指導の工夫を図る。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は45分6限を基本とし、全日制・定時制相互の課程間併修により、学習機会の拡大を図るとしている¹⁴¹⁾。

**平塚商業高校
(定時制)**

平塚商業高校(定時制)の特色ある教育展開は、「多様な分野で活躍できる人材の育成を図る教育内容の提供」を方針とし、将来の進路を展望した学習を幅広く行えるよう、情報ビジネスなどの特色ある教育内容を提供する3つの系列を設置するとした。その系列と主な総合選択科目は、「情報ビジネス系列」の「表計算入門」、「自然環境系列」の「水と自然」、「人文国際系列」の「実用生活英語」といったものである(第26表)。

学習指導においては、少人数学習等の充実に加え、全日制との連携を視野に入れた学習指導の工夫を図る。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は45分7限を基本とし、全日制・定時制相互の課程間併修により、学習機会の拡大を図るとしている¹⁴²⁾。

第 26 表 「後期実施計画」の総合学科高校における系列と主な総合選択科目

校名	系列（主な総合選択科目）
横浜緑園総合	自然環境系列（自然観察、園芸入門） 生活福祉系列（生活科学、社会福祉援助技術） 文化教養系列（演劇表現、郷土史） 国際理解系列（国際問題入門、グローバルイシュー） 情報ビジネス系列（Web 入門、ビジネス基礎） 健康スポーツ系列（コンディショニングプラン、ライフスポーツ）
秦野総合 （全日制）	生涯スポーツ系列 （スポーツマネジメント理論Ⅰ、スポーツマネジメント実習Ⅰ） 造形表現系列（音楽、アンサンブル実習） 自然環境系列（天文学基礎、里地里山研究） 生活福祉系列（被服製作、家庭看護法） 人文国際系列（茶道、20 世紀の世界と日本） 情報科学系列（映像編集、文書デザイン）
座間総合	インターナショナル・リベラル・スタディーズ系列（時事問題、外国事情） ITサイエンス系列（情報倫理、統計処理） エコロジー系列（人間生活と環境、エネルギー概論） ライフデザイン系列（発達と保育、社会福祉基礎） プレゼンテーション系列（プレゼンテーション、コンピュータ・LL 演習）
吉田島総合	人文国際系列（文学に親しむ、視覚で学ぶ英語） 科学・情報系列（数学パズル探究、くらしの科学） ライフデザイン系列（食品製造、ライフスポーツ） 園芸デザイン系列（園芸入門、植物バイオテクノロジー） 地域環境系列（土木に親しむ、森林科学）
磯子工業 （定時制）	工業技術系列（ものづくりの技術A、ものづくりの技術B） 情報技術系列（やさしいプログラミング、ロボット工学入門） 自然科学系列（身近な科学、環境科学） 人文国際系列（国際政治入門、国際経済入門）
向の岡工業 （定時制）	工業技術系列（やってみよう初めての工業、建築デザイン入門） 情報技術系列（コンピュータの基礎、プログラミングって面白い） 人文国際系列（日本と世界の旅、地域研究）
平塚商業 （定時制）	情報ビジネス系列（表計算入門、プレゼンテーション入門） 自然環境系列（園芸を通じた農と食、水と自然） 人文国際系列（中国文化研究、実用生活英語）
秦野総合 （定時制）	自然環境系列（電気のふしぎ、環境と生活） 生活福祉系列（家庭看護・福祉、フードデザイン） 人文国際系列（異文化理解、秦野の歴史と地理） 情報科学系列（パソコン入門、コンピュータデザイン）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

総合学科高校の立ち上げ、活動について

岩村 基紀（元麻生総合高等学校長）

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦労したこと

県内で最初に総合学科を立ち上げた大師高校での勤務経験から、新校への改編がいかに大変であるかは十分に分かっていたので、それだけに教員や生徒が達成感を感じながら楽しく総合学科の立ち上げに取り組める雰囲気づくりに努力した。

まずは、新しい教育システムに対する教員の意識改革であった。総合学科はいくつかの系列を設置し「産業社会と人間」をはじめ、環境や福祉・国際などの教科横断的な科目や、多くの専門科目を開講するが、初めての科目を担当する教員が安心して準備に取り組めるように研修や他校視察などの機会を可能な限り多く設定した。

また、記念すべき新校開校の場面に生徒を主体的に関わらせるために、1期生の合格者説明会の場で開校委員を募集したところ、予想を遥かに上回る30名以上の中学生が名乗り出た。入学前に各中学のさまざまな制服を着た生徒達が集まってアイデアを出し合い、真剣に話し合っている姿を見たときに期待が大きくふくらんだ。

2 生徒や教員の変化

県立麻生総合高等学校は平成16年4月6日に第1期生の入学式と開校式を行ったが、開校式は入学前から自主的に集まって話し合いを重ねてきた34人の開校委員の新入生が企画から演出まで行い、開校委員による開校宣言の最後に新入生全員で「麻生総合高等学校を開校します」と力強く宣言して、一人ひとりの夢を記した短冊を付けた色とりどりのジェット風船を飛ばした。この様子は翌日の新聞各紙に写真入りで大きく報道されたが、開校式後にこの開校委員の生徒を中心に広報スタッフが結成され、同年7月24日に麻生文化センターで開催した学校説明会も全て生徒の企画により生徒中心で開催された。生徒の司会で校長が紹介され、笑顔の広報スタッフの生徒たちと手をつないでステージに上がったときに、つないだ手から生徒の意欲と自信が伝わり、生徒が変わり学校が変わったことをはっきりと実感した。

また、「産業社会と人間」や総合学科の系列科目の一部は開校前年度から先取りで展開したが、すべての教員がいずれかの系列に所属して、その系列科目の授業運営に責任を持つ体制を確立した。社会の教師が福祉を担当し、体育の教師が環境を教えるようなケースも珍しくなくなった。また、毎時90分間の授業ごとに生徒の顔ぶれが異なり、入学年次が異なる生徒が机を並べる授業形態に、最初は戸惑っていた先生方も短期間にごく自然に対応するようになり、意欲的な生徒たちを前にしたときの先生方の自己変革のチカラと柔軟な指導力にも改めて感動した。

3 高校改革の成果

第三の学科である総合学科や学年制の枠を超えた単位制普通科など、従来は考えられなかった新しいシステムの高校の誕生により、生徒の入口から出口まで、大きく変わった。入学前の学校広報のあり方、入学時の選抜方法の工夫、入学後の多彩な学び方のスタイル、キャリア教育の実践の積み重ねによる卒業時の進路選択まで、新校の意欲的な取り組みは、全ての高校の改革に大きく寄与したものと考えている。

4 「前期実施計画」における新たな専門高校・専門学科の設置

(1) 「前期実施計画」における設置

設置の概要 「推進計画」では、産業界に必要とされる人材の育成や高齢化・国際化・情報化の進展や科学技術の高度化、地球環境問題など、「社会の変化に柔軟に対応する新たな学科」として、総合技術・総合産業・国際に関する分野の新しい専門高校、福祉などの新たな専門学科を設置し、環境・海洋科学・芸術・スポーツなどの分野の専門学科についても検討を進めるとした。

「前期実施計画」では、平成 15 年度に藤沢工科高校及び平塚工科高校、平成 17 年度に神奈川総合産業高校が開校した（第 27・28 表）。また、衛生短期大学付属二俣川高校については、平成 12 年度に衛生看護科を改編し、衛生看護科と福祉科を設置した。さらに、平成 14 年度に衛生看護科が看護科に改編され、15 年度には校名が二俣川看護福祉高校に変更となった（第 29 表）¹⁴³⁾。

第 27 表 総合技術高校の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
鎌倉藤沢 〔平成 15 年度〕	藤沢工業高校 大船工業技術高校	藤沢工業 高校敷地	藤沢工科 高校	720 名 (18 学級)	単位制
平塚 〔平成 15 年度〕	平塚工業高校 平塚西工業技術高校	平塚工業 高校敷地	平塚工科 高校	720 名 (18 学級)	

第 28 表 総合産業高校の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
相模原南部 〔平成 17 年度〕	相模台工業高校 相模原工業技術高校	相模台 工業高校 敷地	神奈川 総合産業 高校	720 名 (18 学級)	全日制の み、単位制

第 29 表 福祉科の設置の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	備考
横浜西部 〔平成 12 年度〕	衛生短期大学付属 二俣川高校	衛生短期 大学付属 二俣川高 校敷地	二俣川 看護福祉 高校	12 年度：福祉科新設 14 年度：衛生看護科が 看護科に改編 15 年度：校名変更

(2) 総合技術高校

総合技術高校の 概要

総合技術高校は総合技術科を設置した新しいタイプの専門高校である。「新校設置計画」に示されている設置の目的は、高齢化・国際化・情報化の進展や科学技術の高度化、地球環境問題への意

識の高まりといった社会の変化に応じた工業教育の展開と、これからの工業分野で総合的な視野をもって活躍する人材の育成である。

基本的コンセプトは、「一人ひとりの特性に応じた教育の提供」、「多様な進路希望や学習目的に応じた教育活動の展開」の二点である。1年次に工業分野の基礎・基本を共通に学び、2年次以降は専門的な系やコースに分かれて学習することで、一人ひとりの目的に応じて専門性を深め、進学して継続的に学ぶことができる教育内容を提供し、生徒の進路希望や学習目的に応じた教育活動を展開する。

教育課程については、各校とも特色ある教育展開を図るため、学習指導要領上の必修科目に加え、系やコースの専門科目、自由選択科目などを設置し、技能審査の成果やインターンシップなど学校外での学習成果による単位認定を行い、また集中講座など柔軟な履修形態による学習活動を展開することである。

学習指導においては、小集団学習等の充実、個別指導の実施への配慮をすること、「総合的な学習の時間」において系の選択や将来の進路などに結びつくよう学習指導の工夫をする。生徒指導等では、系やコースを越えたホームルーム編成（「ミックスホームルーム」）、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本とし、特色ある教育内容を選択して学ぶことが可能となるよう配慮するとしている。

以下、各校の教育課程や学習指導、生徒指導など教育活動の特色について、「新校設置計画」等を基に整理する。

藤沢工科高校

藤沢工科高校の特色ある教育展開は、「ものづくりの視点を重視した教育内容の提供」を方針とし、これからの工業に求められる能力の向上を図るとともに、総合デザインという視点など創意工夫を生かす実践的な技術者を育成するための教育内容を提供する。

そのため、1年次に「工業技術基礎」等の共通専門科目を置き、2年・3年次に専門的な教育内容を提供する6つの系を設置するとした。その系と主な専門科目は、「生産技術系」の「生産技術実習Ⅰ・Ⅱ」、「情報通信系」の「回路デザイン技術」、「建築系」の「建築構造」、「住環境系」の「空気調和設備Ⅰ・Ⅱ」、「都市土木系」の「社会基盤工学」、「総合デザイン系」の「デザイン技術」といったものである（第30表）。生徒は1年次に普通科目及び共通専門科目を履修したうえで、2年次から各自の進路希望や特性、興味・関心に基づきいずれかの系に所属し系の科目を学習する。また、1年次の「総合ガイダンス」（総合的な学習の時間）において、望ましい職業観を身に付け、2年次からの系の選択の指針とするよう指導するとしている¹⁴⁴⁾。

平塚工科高校

平塚工科高校の特色ある教育展開は、「環境分野の教育内容の提供と学習目的に応じた専門教育の展開」を方針とし、地球環境について共通に基礎を学び認識を深めるとともに、環境分野で特色ある教育内容を提供し、自動車分野などの資格取得も視野にいたった専門教育を展開する。

そのため、1年次に「工業技術基礎」、「地球環境化学」等の工業に関する共通専門科目を置き、2年次に系の科目、3年次にコースの科目を設置するとした。その系・コースと主な科目は第30表に示すとおりである。「機械系」は「機械技術コース」、「メカト

ロニクスコース」及び「自動車コース」の3コース、「電気系」は「電気技術コース」と「情報技術コース」の2コース、「環境化学系」は「エネルギーコース」、「マテリアルコース」の2コースからなり、専門科目を設置する（第30表）。生徒は1年次に普通科目及び工業に関する基礎科目を共通履修した上で、2年次からは各自の進路希望や特性、興味・関心に基づき、いずれかの系・コースに所属し、専門性を深める学習をする。また、1年次の「総合的な学習の時間」において、総合技術科における系・コースの選択や将来の進路、自己のあり方や生き方についての考察が深められるよう指導するとしている¹⁴⁵⁾。

第30表 「前期実施計画」の総合技術高校における系・コースと主な科目

校名	系・コース（主な科目）
藤沢工科	生産技術系（生産技術実習Ⅰ・Ⅱ、設計製図） 情報通信系（情報通信実習Ⅰ・Ⅱ、回路デザイン技術） 建築系（建築構造、建築計画） 住環境系（空気調和設備Ⅰ・Ⅱ、設備計画Ⅰ・Ⅱ） 都市土木系（測量Ⅰ・Ⅱ、社会基盤工学） 総合デザイン系（デザイン実習Ⅰ・Ⅱ、デザイン技術）
平塚工科	機械系（機械実習（共通）、機械設計） 機械技術コース（機械実習（機械技術）、科学技術基礎） メカトロニクスコース（機械実習（メカトロニクス）、電子機械） 自動車コース（機械実習（自動車）、自動車工学） 電気系（電気実習（共通）、電気基礎） 電気技術コース（電気実習（電気技術）、電気機器） 情報技術コース（電気実習（情報技術）、ソフトウェア技術） 環境化学系（工業化学、環境化学実習（共通）） エネルギーコース（環境化学実習（エネルギー）、エネルギー工学） マテリアルコース（環境化学実習（マテリアル）、工業材料） ※（共通）は系の共通科目

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

（3）総合産業高校

神奈川総合産業高校

総合産業高校は、総合産業科を設置した新しいタイプの専門高校である。「推進計画」においては、神奈川総合産業高校の1校が設置された。

設置の目的は、産業構造や就業構造の変化、情報化の急速な発展、科学技術の高度化、地球環境問題への意識の高まりといった社会の変化に柔軟に対応すること、新たな産業の創出や科学技術の進展に主体的に関わる創造的な人材の育成を目指すことである。基本的コンセプトは、「総合的に産業を学ぶ教育」を提供することや、単位制のシステムを活用した「多様な進路希望や学習目的に応じた教育活動」を展開することなどである。

教育課程については、特色ある教育展開の方針を「科学技術の視点や国際的な視点からの幅広い教育内容の提供」とし、大学、研究機関、企業等との連携を図りつつ、工学、情報、科学、環境、国際、バイオの各分野で特色ある教育内容を提供するとした。産業

を総合的に学習するため学校独自の科目として、「科学技術基礎」、「総合産業実習」、「課題研究」の3つの共通必修専門科目を置く。その科目の概要は次のとおりである。

「科学技術基礎」：科学技術に関する基礎的な知識や、数理的な思考活動をとおして創造性の基礎を培い、これからの科学技術のあり方について学習

「総合産業実習」：科学技術や情報技術の特性や企業での就業体験活動をとおした生産・流通の仕組みを学ぶことで、製品の研究開発から製造、販売に至るまでのプロセスを総合的に学習

「課題研究」：専門的な知識と技術の深化、総合化を図り、問題解決の能力や自発的創造的な態度を育てるため、各自のテーマに基づき研究

それらに加えて「工学系」、「情報系」など6つの系に専門科目を設置する。その系と主な科目は、「工学系」の「ロボットシステム」、「情報系」の「映像デザイン入門」、「科学系」の「宇宙科学」、「環境系」の「環境科学実習Ⅰ」、「国際系」の「アントレプレナー(起業家)入門」、「バイオ系」の「バイオテクノロジー入門」といったものである(第31表)。

教育課程の弾力化については、単位制のシステムを活用し、2学期制による学期ごとの認定をはじめ、学校間連携や大学、研究機関、企業等との連携による学習活動の成果、実用英語検定等の技能審査の成果、ボランティア活動、就業体験活動などの計画に基づいた学校外での学習成果による単位認定を行う。また、全日制と定時制との課程間併修を実施し、集中講座など柔軟な履修形態による学習活動を展開する。

学習指導では、小集団学習等の充実や、各自の学習内容に基づいた個別指導の工夫をする。生徒指導等では、入学年度ごとのホームルーム編成、異年齢集団による特別活動の実施、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は90分4限を基本とし、小集団学習や習熟度別学習を進め、特色ある教育内容を選択して学ぶことが可能となるよう配慮するとしている¹⁴⁶⁾。

* 神奈川総合産業高校定時制課程については71頁を参照のこと。

第31表 総合産業高校における系と主な科目

校名	系(主な科目)
神奈川 総合産業	工学系(ロボットシステム、自動車工学) 情報系(コンピュータシステム、映像デザイン入門) 科学系(宇宙工学、宇宙科学) 環境系(環境科学実習Ⅰ、地球環境化学) 国際系(アントレプレナー(起業家)入門、スピーチ&プレゼンテーション) バイオ系(バイオテクノロジー入門、微生物バイオテクノロジー)

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

専門高校（総合産業）の立ち上げ、活動について

相模原青陵高等学校長 片 英治（元神奈川総合産業高校教頭）

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦勞したこと

全国に例のない「総合産業」をどう考えるか。設置基本計画では、工学、科学、情報、環境、国際、バイオの6系からなり、科学技術と国際という視点から総合的に産業を学ぶというコンセプトであった。しかし、既存の産業ではなくて新たな産業を創出する気概のある人材を育成するという理念がないと、単に「英語に強い理系人材育成の専門高校」と矮小化されると思った。

そんなときに、日産自動車からきた宮原初代校長（開校前は総務室主幹）は「チャンス、チャレンジ、クリエイティブ」という3つの「C」を総合産業の教育目標として提示され、われわれ新校準備委員もそうした気概を持って総合産業を創出するように指示された。われわれは当時先端的な取り組みをしていると考えられるさまざまな教育機関等を訪問研究して総合産業の創出に取り組んだ。

例えば、デジタルコンテンツ専門人材育成機関「デジタルハリウッド」とは、総合産業のスクールインデンティティ（SI）デザインなどを横浜校の社会人学生の皆さまと相互にやりとりをして創り上げるなどした。このとき出来た愛称「LiSA」（リベラル、インターナショナル、サイエンス&アーツのアクロニム）のロゴデザインと変革の象徴としてのメタモルフォーゼを表す LiSA のキャラクター「バタフライ（蝶）」のデザインはいまでも LiSA の生徒に愛されている。

2 生徒や教員の変化

「3つのC」を新校づくりに体現していこうと、文字とおりに昼夜を分かつたらず取り組んだ「七人の侍」（新校準備委員、片がつけた綽名）のエネルギーな活動は特筆すべきである。校舎建築中だったため、さまざまな場所に向いて学校説明会を開催したが、悪天候でも中止連絡をするすべがないので予定どおり開催するのだが、海老名市文化会館小ホールで開催したときは、台風通過の暴風雨でだれも来場されないだろうと思っていたのにずぶねれになった教家族の方々が来場され、とても感激した。

無謀にも開校初年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）を目指したことにも七人の侍の心意気が出ていたと思う。この「種」はやがて平成21年度芽を出し、LiSAは文科省よりSSHに指定されたのである。

こうした説明会などを通して「七人の侍」たちに意気に感じてくれて入学した総合産業科一期生の先鋭集団もすごい活動ぶりであった。夏休み中にもかかわらず数多くのサイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）や集中講座に積極的に参加するなど、彼らはLiSAの「3つのC」（チャンス、チャレンジ、クリエイティブ）を体現していった。

片は1年でLiSAから異動となったが、教職員の努力もあり、240名に満たない一期生から十数名が国公立大学や早稲田大などへと進学していくなど、果敢な彼らの成果を聞いて、さもありなんと思った。

5 「後期実施計画」における新たな専門高校・専門学科の設置拡大

(1) 「後期実施計画」における設置

設置の概要

「後期実施計画」においても、新たな専門高校の設置が進められた。総合技術高校は平成 22 年度に川崎工科高校が設置された（第 32 表）。また、「前期実施計画」では設置されなかった新たな専門高校として、平成 20 年度に小田原総合ビジネス高校、横浜国際高校、海洋科学高校、集合型専門高校の横須賀明光高校及び弥栄高校が新たに設置された（第 33～36 表）¹⁴⁷⁾。

第 32 表 「後期実施計画」における総合技術高校の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
川崎市中原区 〔平成 22 年度〕	川崎工業高校 (単独改編)	川崎工業 高校敷地	川崎工科 高校	720 名 (18 学級)	

第 33 表 「後期実施計画」における総合ビジネス高校の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
小田原市 〔平成 20 年度〕	小田原城東高校 湯河原高校	小田原城東 高校敷地	小田原総 合ビジネ ス高校	720 名 (18 学級)	

第 34 表 「後期実施計画」における国際情報高校の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横浜市南区 〔平成 20 年度〕	六ツ川高校 外語短期大学 付属高校	六ツ川高校 敷地	横浜国際 高校	480 名 (12 学級)	単位制

第 35 表 「後期実施計画」における海洋科学高校の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横須賀市 〔平成 20 年度〕	三崎水産高校 (単独改編)	三崎水産 高校敷地	海洋科学 高校	480 名 (12 学級)	単位制

第 36 表 「後期実施計画」における集合型専門高校の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横須賀市 〔平成 20 年度〕	久里浜高校 岩戸高校	久里浜高校 敷地	横須賀 明光高校	480 名 (12 学級)	単位制
相模原市 〔平成 20 年度〕	弥栄東高校 弥栄西高校	弥栄東・弥栄 西高校敷地	弥栄高校	960 名 (24 学級)	単位制

(2) 総合技術高校の設置拡大

川崎工科高校 「後期実施計画」では、総合技術高校は川崎工科高校1校が設置された。その基本的コンセプトは、「多様な進路希望や学習目的に応じた教育活動」を展開すること、「一人ひとりの特性に応じた教育」を提供すること、「特別活動の活性化・学校生活指導の充実」の三点である。

教育課程については、特色ある教育展開の方針を「環境分野の教育内容の提供と学習目的に応じた専門教育の展開」とし、多様化する環境問題に対する工業技術の関わり方についての理解や認識を深めるとともに、各系・コースにおいて環境分野に特色をもたせた教育内容を提供するとした。そのために、学習指導要領上の必修科目に加え、「工業技術基礎」、「基礎製図」、「情報技術基礎」等の共通必修専門科目、「総合的な学習の時間」の一部に替える「課題研究」を置く。それらに加えて、2年・3年次に専門的な教育内容を提供する系・コースを設置する。その系・コースと主な科目は第37表のとおりである。「機械系」は「機械エンジニアコース」、「ロボットシステムコース」の2コース、「電気系」は「電気テクノロジーコース」、「情報メディアコース」の2コース、「環境化学系」は「環境エンジニアコース」、「食品サイエンスコース」の2コースからなり、それぞれのコースに専門科目を設置する（第37表）。生徒は1年次に工業の基礎・基本を学ぶ共通科目を学んだ上で、2年次からは自己の適性に基づき、いずれかの系・コースに所属し専門性を高める。また、大学・専修学校等との連携や技能審査の成果、学校外での学修による単位認定を行うなどの教育課程の弾力化を図る。

学習指導では、少人数学習等の充実に加え、1年次の「総合的な学習の時間」では、系・コースの選択や将来の進路、自己のあり方、生き方についての考察を深められるよう指導の工夫をする。生徒指導等では、系やコースを越えたホームルーム編成（「ミックスホームルーム」）、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹⁴⁸⁾。

第37表 「後期実施計画」の総合技術高校における系・コースと主な科目

校名	系・コース（主な科目）
川崎工科	機械系（機械製図） 機械エンジニアコース（機械実習、機械設計） ロボットシステムコース（ロボットシステム、生産システム技術） 電気系（電気基礎） 電気テクノロジーコース（電気実習、電力技術） 情報メディアコース（情報メディア実習、プログラミング技術） 環境化学系（工業化学） 環境エンジニアコース（化学実習、応用化学） 食品サイエンスコース（食品製造技術、食品化学工業）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

(3) 総合ビジネス高校の設置

小田原総合ビジネス 高校

総合ビジネス高校は、総合ビジネス科を設置した新たな専門高校で、「後期実施計画」において、平成20年度に小田原総合ビジネス高校1校が新設された。設置の目的は、社会・経済の高度化や産業構造の変化に柔軟に対応した新しい商業教育を展開し、これからのビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけ、問題発見・解決提案の能力を持ち、自立とチャレンジの精神に富んだ、創造力豊かな次世代を担う人材を育成することである。基本的コンセプトは、「多様な進路希望や学習目的に応じ、自己学習力を育む教育活動」を展開すること、「生徒の自己発見を促し、一人ひとりの適性や進路選択に柔軟に対応する教育」を提供することなどである。

教育課程については、特色ある教育展開の方針を「ビジネスに関する幅広い知識と技術の学習を通じた自己学習力の育成」とし、インターンシップやチャレンジショップなどを通して、社会人としての常識やビジネスマナー、これからのビジネスに対する心構え・理念を育成するための教育内容を提供し、資格取得も視野に入れた専門教育を展開するとした。そのために、学習指導要領上の必修科目に加え、商業の基礎・基本を学ぶ「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」などの共通必修科目、特色ある教育内容を提供する5つの系を設置する。その系と主な科目は「流通ビジネス系」の「マーケティング」、「会計ビジネス系」の「ファイナンス基礎」、「情報ビジネス系」の「プログラミング」、「国際ビジネス系」の「国際ビジネス」、「教養ビジネス系」の「教養基礎」といったものである（第38表）。生徒は1年次に商業の基礎・基本を学ぶ共通科目を学習した上で、2年次からは自己の適性に基づき、いずれかの系に所属し専門性を高める。また、大学・専修学校等との連携や技能審査の成果、学校外での学習成果による単位認定を行うなどの教育課程の弾力化を図るとしている。

学習指導では、少人数学習等の充実に加え、1年次の総合的な学習の時間において、系の選択や将来の進路、自己のあり方、生き方についての考察を深められる指導や、体験的・実習的な学習展開を図り、インターンシップなどによる社会性やコミュニケーション能力を育むことができる指導の工夫を図る。生徒指導等では、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分6限を基本としている¹⁴⁹⁾。

第38表 総合ビジネス高校における系と主な科目

校名	系（主な科目）
小田原総合 ビジネス	流通ビジネス系（マーケティング、商品企画） 会計ビジネス系（ファイナンス基礎、ビジネス法規） 情報ビジネス系（プログラミング、ビジネスと動画） 国際ビジネス系（国際ビジネス、英語実務） 教養ビジネス系（教養基礎、日本語と漢字）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

なお、小田原城東高校では授業で学習したことを実践するチャレンジショップとして、平成16年度より小田原市の銀座通り商店街に「Gestore おだわら」（ジェストレー）を

出店している。この店では、全校生徒による平日の営業のほか、「店舗経営同好会」の生徒がイベントを企画し運営している。このユニークな活動は新校にも引き継がれ、平成24年度は4月28日より第9期の営業を開始した¹⁵⁰⁾。

専門高校（総合ビジネス）の立ち上げ、活動について

近藤 薫（前小田原総合ビジネス高等学校長）

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦労したこと

総合商社出身の「民間人校長」として「商業教育からビジネス教育への転換」を最大の使命と心得て、新校準備委員達の意欲と能力を発揮していただくことに注力した。一方、普通科であり最後の2年間は募集を停止して学校を閉じる湯河原から教員を迎えつつ、施設利用校として従来どおり存続する商業科の小田原城東との統合をスムーズに行うのは、校名/校歌/校章/制服の変更も含め、大仕事であった。

新校設置基本計画は、両校および県教委による新校準備委員会で熱心に討議して実質1年半で策定したが、時間の半分以上は第2章「設置の目的」と第3章「基本的コンセプト」の文言に費やした。自立する＝働くという前提の下、知識を覚えるのではなく、感じ・考えて、現実の社会の激しい変化に対応できる自分自身を教育する力を身に付けさせる教育を目指す、という趣旨を明確に表現した文案が出来た、と自負している。が、両校委員が一致して推した「自己教育力」が、「自己学習力」に変わって確定したことが唯一残念であった。

新校準備のもう一つの大きな柱は、従来の3小学科(商業・情報・国際経済)に代わる5系(会計ビジネス・情報ビジネス・流通ビジネス・国際ビジネス・教養ビジネス)の設定である。新校で学んだ生徒が選びたいであろう将来の進路(職)を発想の出発点に置き、様々の職を列挙し、KJ法も使って分野を整理し、高校で望まれる教育内容を決めて5つの系を立てた。教養ビジネス系については、理念「公的サービスを Social Business として提供できる発想とノウハウの教育」を正しく理解して戴くのが流石の新校準備委員会でも難しく、名称も必ずしも本来狙っていた中身にそぐわず、不安を抱えてのスタートとなった。しかし結果的には毎年、この系に進んだ生徒は提供している科目を柔軟に選択し、先生方の工夫を重ねた授業に正面から取り組み立派に卒業してっており、安堵している。

2 生徒や教員の変化

生徒について言えば、「学んでから選ぶ」設計どおり、3小学科別の入選から「入口は1つ(総合ビジネス科のみ)」になったこと、1年生9月末時点での5系の選択は、定員制限を一切設けず、全て生徒の希望どおり「自己責任で」行うようにしたことにより、「自分の興味・関心・適性、就きたい仕事から系を選択する」という5系設定の趣旨に沿って、不本意に学んでいるという意識の生徒が激減したことが、一番顕著な変化である。

先生方にとっては、資格取得・検定合格という在来の明確な目標に加えて、学科編成・カリキュラムの大変更および従来なかった新機能を備えた ICT 教室、集団活動教室の新設により、新施設の設計、そして利用法を開発し、新カリキュラムをどう生徒に還元してゆく新しい使命と向き合う中、多忙感を克服しながら、新しいものを生み出していたことが成果だと思う。合わせて、耐震化を兼ねた校舎改修という、プレファブでの授業や往復の引越しを伴う大仕事にも、諸室の配置変更や、職員室の改造など、知恵

を絞ってより良い環境を造り出す中に大きな喜びを感じていただけたのではないかと感じる。

3 高校改革の成果

本校について言えば、従来との関係を損なうことなく、改革対象校となったことを最大限に活かして、一層信頼される学校への軌道に乗せることが出来たと考える。

県全体で言えば、中学校卒業生の97%以上が高校進学する現状に合わせて、さまざまな学びの可能性を与える多彩なタイプの学校が出来たことは良かったと思う。ただし、経済状況低迷に伴う県財政の悪化により教育人件費もぎりぎりの縮減を迫られる中で、改革の大きな成果であった総合学科を如何に維持・向上させてゆくか、また、前期改革で誕生した工科高校2校と本校及び海洋科学高校を除けば、上級学校卒業後も含め職に就いて最も早く県税を納めることになる率が高い生徒達を教育する専門学科のあり方を、どのように改革・改善してゆくかについて、方向を示し答えを出すという課題が残されている、と考える。結果的に総合学科への改編対象とならなかった多数の普通科の高校についても、単位制の導入は魅力・特色づくりに活かされているようであるが、専門学科と違って「何のために学ぶのか」という大前提となる旗が、掲げられていないのが大問題ではないか、また、今後何を目指して生徒を学校生活に引き込んでゆくのか、その実現に必要な予算を獲得するのか、県教委・各校が共通の当事者意識を持って、深く踏み込んだ議論と方針の決定が求められているのではないかと感じる。

(4) 国際情報高校の設置

横浜国際高校

国際情報高校は、国際情報科を設置した新しいタイプの単位制による専門高校であり、「後期実施計画」において、平成20年度に横浜国際高校1校が新設された。設置の目的は、社会のグローバル化に対応して必要となる外国語によるコミュニケーション能力やIT活用能力を身につけるための学習活動を展開し、進学して継続的に学ぶ希望に対応して、一人ひとりの学習ニーズに応じた国際、情報に関する専門性の高い教育内容を提供することである。基本的コンセプトは、「単位制による専門的な教育」を提供すること、「特色ある教育活動」を展開することなどである。

教育課程については、特色ある教育展開の方針を「国際社会に対応する発展的、専門的な学習を重視し、豊かな教養を身につけた人材の育成をめざす教育内容の提供」とし、大学や企業の研究機関との連携や国際交流等を通じ、国際情報分野の学習展開と、国際的な教養やコミュニケーションなどの分野で特色ある教育内容を提供するとした。そのために、「ドイツ語Ⅰ」・「フランス語Ⅰ」・「スペイン語Ⅰ」・「ハンガールⅠ」・「中国語Ⅰ」・「アラビア語Ⅰ」から1科目及び「異文化理解」を必修科目とし、特色ある教育内容を提供する3つの系を設置する。その系と主な科目は「国際コミュニケーション系」の「インターナショナルコミュニケーション」、「国際文化系」の「日本紹介A」、「情報系」の「ICTの基礎」といったものである(第39表)。また、大学・専修学校等との連携や技能審査の成果、学校外での学習成果による単位認定を行うなどの教育課程の弾力化を図るとしている。

学習指導では、少人数学習等の充実に加え、生徒が主体的に学習を進め、適切な内容

を学ぶことができるよう、チューターを中心にした指導を工夫する。生徒指導等では、海外との姉妹校交流など多様な文化を理解できるような特別活動の工夫、キャリアガイダンス、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は50分7限を基本とし、海外帰国生徒に対して、必要に応じた学習支援と、優れた外国語能力を維持発展するような学習活動に配慮するとしている¹⁵¹⁾。

第39表 国際情報高校における系と主な科目

校名	系（主な科目）
横浜国際	国際コミュニケーション系 （インターナショナルコミュニケーション、スピーチ アンド ディベート） 国際文化系（日本紹介A、イングリッシュ スルー ムービーズ） 情報系（ICTの基礎、アルゴリズム）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

（5）海洋科学高校の設置

海洋科学高校

海洋科学高校は、海洋という視点から学ぶ新しいタイプの専門高校であり、「後期実施計画」において、平成20年度に海洋科学高校1校が新設された。学科は海洋科学科であり、一般コース及び船舶運航コースが設置されている。設置の目的は、海洋をとりまく社会や産業の多様化・国際化に対応し、スペシャリストの基礎や将来海洋関連産業で活躍できる人材の育成を目指すこと、海洋を学ぶの場とし、海洋におけるさまざまな体験学習をとおして、自己の可能性を開拓するとともに、キャリア教育を推進し、「生きる力」を育成することである。

基本的コンセプトは、「幅広い海洋教育」を提供すること、「特色ある教育活動」を展開することなどである。

教育課程については、特色ある教育展開の方針を「海洋を多角的に捉えた教育内容の提供」とし、海洋に関する多様な教育内容を提供すること、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、国際社会における文化や言語に対する理解を深め、コミュニケーション能力を高めることとした。このため、「海洋科学基礎」及び「体験乗船実習」を学校必修科目とし、海洋に関する特色ある4つの系を設置する。その系と主な科目は「エコロジー・サイエンス（資源・環境）系」の「海の生物」、「テクノロジー・ネットワーク（工学・情報）系」の「海洋物理Ⅰ」、「グローバル・カルチャー（国際・文化）系」の「海洋英語A」、「ライセンス・スポーツ（技術・利用）系」の「マリンスポーツⅠ」といったものである（第40表）。

また、船舶運航コースにおいては、「五級海技士」の資格取得を目指すとともに、「三級海技士」の資格取得が可能な専攻科に進学するために必要な教育課程を編成し、「航海系」又は「機関係」のいずれかの科目群を選択して履修する。「航海系」には「航海・計器」や「漁船運用」など、「機関係」には「船用機関」、「機械設計工作」などの専門科目を設置するとしている。

学習指導では、短期集中型の実習や大学・各種研究機関など学校外における学習が展開できるよう工夫する。生徒指導等では、キャリアガイダンス、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫する。授業展開は90分4限を基本としている¹⁵²⁾。

第40表 海洋科学高校における系と主な科目

校名	系（主な科目）
海洋科学	エコロジー・サイエンス（資源・環境）系 （海の生物、海とバイオテクノロジー）
	テクノロジー・ネットワーク（工学・情報）系 （海洋物理Ⅰ、海洋コンピュータシステムⅠ）
	グローバル・カルチャー（国際・文化）系（海洋英語A、海洋文学Ⅰ）
	ライセンス・スポーツ（技術・利用）系 （マリンスポーツⅠ、ダイビング（発展））

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

また、船舶運航コース3年生及び専攻科の漁業生産科・水産工学科1年生は、総合実習及び乗船実習として実習船「湘南丸」で、3ヶ月間仲間と共に生活しながらハワイまで往復する実習を行う。湘南丸で船橋当直業務やマグロ延縄漁業を体験しながら、船の運航技術やマグロ延縄漁業についての技術や知識を身につけ、生きていく上で必要な社会性や協調性を学んでいくとしている¹⁵³⁾。

（6）集合型専門高校の設置

集合型専門高校 の概要

集合型専門高校は専門性の高い内容を学ぶことができる、複数の専門学科を配置する新しいタイプの高校である。「後期実施計画」において、国際科、福祉科の2科からなる横須賀明光高校、国際科、芸術科、スポーツ科学科及び理数科の4科からなる弥栄高校の2校が、平成20年度に設置された。設置の目的は、生徒一人ひとりの能力を伸ばし、新しい時代を担う主体の育成を目指すため、進学を基本としつつ、専門性の高い内容を学ぶことができる専門学科を複数設置し、自己の適性に応じて、専門性を深めることや進路実現のための学習を充実させることで、一人ひとりの個性の伸長をめざした教育を行うことである。基本的コンセプトは、「複数専門学科設置による幅広い教育」を展開すること、「特色ある教育活動」を展開することなどである。

教育課程については、各校とも特色ある教育展開を図るため、学習指導要領上の必修科目に加え、学科専門科目と共通選択科目を設置し、単位制による教育課程を編成する。また、集中講座など柔軟な履修形態による学習活動の展開、技能審査の成果やボランティア活動など学校外での学習成果による単位認定を行うなどの教育課程の弾力化を図る。なお、学科専門科目は、各学科の専門性の基礎となる「基礎科目」、専門性を高める「発展科目」、教科横断的な視点から専門性を高める「総合科目」からなり、学科相互に選択可能としている。共通選択科目は、興味・関心や必要に応じて、充実・発展を目指す「充実・発展科目」、進路希望実現に向けた自己開発を目指す「自己開発科目」から

なる。

学習指導では、少人数学習等の充実に加え、「総合的な学習の時間」において課題解決能力の育成等を目指す課題研究などにより、3年間を見通した計画的な指導を行うなどを工夫する。生徒指導等では、チューターの配置による生徒の学びや自己実現の支援や、学科の特性を生かした部活動やサークル活動などの活性化、カウンセリング等の相談体制の充実などを工夫するとしている。授業展開は、横須賀明光高校が90分3限と45分1限の組み合わせ、弥栄高校が45分7限を基本としている。

以下、各校の各学科の特色について、科目構成を中心に整理する。

横須賀明光高校

横須賀明光高校は国際科、福祉科の2つの専門学科からなる。国際科では、外国語と異文化理解を核にした専門科目を展開し、スピーチコンテスト、ディベートコンテストなどのさまざまな体験的学習活動を通じて、知識や技能の発展、総合化を図り、福祉科の専門科目も含めた幅広い科目を学ぶことにより、優れたコミュニケーション能力と豊かな国際感覚をもった人材の育成を目指す。

また、福祉科では、福祉の実践者として必要な能力と心を育成するためのさまざまな専門科目を展開し、校外施設での実習やボランティア学習など体験的学習活動を通じて、知識や技能の発展、総合化を図り、国際科の専門科目も含めた幅広い科目を学ぶことにより、優れたコミュニケーション能力をもち、地域・社会に貢献できる幅広い視野と柔軟な思考力を有する人材の育成を目指すとしている。

特色ある教育展開は、「生徒の学習ニーズに対応するとともに産業のグローバル化や福祉関連産業の進展によって求められる分野の知識・技能の育成を図る」という方針のもと、生徒一人ひとりの興味・関心や進路希望に基づいた、国際分野や福祉分野の専門的な学習内容を提供するとともに、学科相互の関連を図る学習を展開するなど一人ひとりの幅広い学習ニーズに対応するとしている。そのために、「総合英語」、「社会福祉基礎」を共通必修科目として設置するほか、国際科と福祉科の専門科目として、第41表に示したような多様な選択科目を設置するとした（第41表）¹⁵⁴⁾。

弥栄高校

弥栄高校は国際科、芸術科、スポーツ科学科、理数科の4つの専門学科からなる。国際科では、日本文化を含む多文化理解と英語を中心とした多言語学習の授業を展開し、海外姉妹校交流など充実した教育環境の中で、幅広い視野と柔軟な思考力を持った国際的な舞台上で活躍する人材を育成する。芸術科では、芸術文化の発展に寄与する創造性と表現力、鑑賞力を有する人材を育成する。スポーツ科学科では、スポーツの技術の解析やゲーム分析などの方法を学ぶとともに、さまざまなスポーツの専門的な技能を身につけ、生涯にわたる体育、スポーツの振興・発展に寄与する人材を育成する。理数科では、科学的思考力及び問題解決能力を身につけ、科学技術の発展に寄与できる人材を育成するとしている。

特色ある教育展開は、「生徒の学習ニーズに対応するとともに産業のグローバル化や産業区分のボーダレス化によってこれからの社会に求められる分野の知識・技能の育成を図る」という方針のもと、生徒一人ひとりの興味・関心や進路希望に基づいた、国際や芸術、スポーツ科学、理数の各分野の専門性の高い学習内容を提供するとともに、学科

相互の関連を図る学習を展開するなど一人ひとりの幅広い学習ニーズに対応している。そのために、国際科、芸術科、スポーツ科学科、理数科の専門科目として、第41表に示したような多様な選択科目を設置するとした（第41表）¹⁵⁵⁾。

第41表 集合型専門高校の学科と主な科目

校名	学科	主な科目
横須賀 明光	国際科	国際基礎科目（コンピュータ・LL演習、英語理解） 国際発展科目 （コミュニケーション・スキルズⅠ、ジャパニーズカルチャー） 国際総合科目（ハングルⅠ、スペイン語Ⅰ）
	福祉科	福祉基礎科目（社会福祉実習、社会福祉援助技術） 福祉発展科目（社会福祉基礎（発展）、フードデザイン） 福祉総合科目（生活と看護、ボランティア学習）
弥栄	国際科	国際基礎科目（国際関係史、イタリア語Ⅰ） 国際発展科目（時事英語、イタリア語Ⅱ） 国際総合科目（生活英語、表現活動Ⅰ）
	芸術科	芸術基礎科目（オーケストラ、素描） 芸術発展科目（演奏法、素描研究） 芸術総合科目（総合舞台芸術、実用と生活の書）
	スポーツ 科学科	スポーツ科学基礎科目（総合体育、専門実技Ⅰ） スポーツ科学発展科目（専門実技Ⅰ、専門実技Ⅱ） スポーツ科学総合科目（解剖生理学、スポーツ社会学）
	理数科	理数基礎科目（理数数学Ⅰ、理数物理） 理数発展科目（理数数学探究、理数化学実験） 理数総合科目（ネットワークシステム、バイオテクノロジー）

* 「新校設置計画」に記載されているものを記載

6 専門コースの新たな設置

設置の概要

普通科における専門コースは、昭和58年度に弥栄東高校と弥栄西高校を開校し、県内初の専門コースを設置して以来、第42表のとおり、平成11年度までに、20校で情報、国際、芸術、体育、外国語、福祉などに関する22のコースが設置されていた（第42表）。

「前期実施計画」においては、美術・健康福祉・自然科学の3コースを新たに設置するとともに、既設の設置校における研究・実践の推進や、施設設備の整備及び更新を順次実施していくことで、専門コースの改善・充実を推進するとした。計画の実施により、白山高校に既設の「国際教養コース」に加えて「美術コース」、再編統合校の横浜南陵高校に「健康福祉コース」、西湘高校に「理数コース」が新たに設置されることとなった（第43表）¹⁵⁶⁾。

第 42 表 専門コース設置校及びコース一覧（平成 11 年度時点）

<p>* 校名（コース名）</p> <p>六ツ川（情報科学）、磯子（国際ビジネス）、釜利谷（体育）、白山（国際教養） 荏田（体育）、上矢部（美術陶芸）、生田（自然科学）、岩戸（外国語） 高浜（福祉）、五領ヶ台（外国語）、小田原城内（外国語）、弥栄東（美術・音楽） 弥栄西（体育・外国語）、秦野南が丘（生涯スポーツ）、厚木北（スポーツ科学） 有馬（外国語）、ひばりが丘（国際教養）、綾瀬西（福祉教養）、山北（体育） 津久井（社会福祉）</p>

第 43 表 専門コース設置校の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名・ 設置コース	コース規模	備考
横浜北部 〔平成 14 年度〕	白山高校		国際教養コース (既設) 美術コース	18 学級中 各 3 学級	
横浜南部 〔平成 15 年度〕	横浜日野高校 野庭高校	横浜日野 高校敷地	横浜南陵高校 健康福祉コース	18 学級中 3 学級	
県西 〔平成 17 年度〕	西湘高校		理数コース	24 学級中 3 学級	

設置の目的は、普通科においても、国際・芸術・スポーツ・福祉・理数といった分野の教育内容を提供する専門コースを設置し、個性・適性の伸長を目指す教育を展開すること、また一般コース・専門コース相互の科目を履修できるようにすることで、学校全体の特色づくりを推進することである。

教育課程については、各校とも特色ある教育展開を図るため、学習指導要領上の必履修科目に加え、専門コース関連科目と自由選択科目を設置する。

学習指導では、基礎学力充実のため一般コース、専門コースとも 1 年次から少人数や習熟度別による学習指導を取り入れることや、一般コースにおいても、専門コースとの連携を図りながら進路希望や興味・関心に応じた学習指導を行うなどを工夫する。コース関連科目については、少人数による授業の展開を実施するとしている。

以下、この概要で記載できなかった各校の教育活動の特色について、整理する。

白山高校 白山高校の専門コースは、従来の「国際教養コース」を再編し、国際分野、美術分野を一層深く学ぶことができるよう、「国際教養コース」に加え、「美術コース」を設置した。基本的コンセプトは、国際分野、美術分野での専門的な学習を深化させることと、一般コースにおいても多様な選択科目を設置し、一般コースと専門コース相互の科目を履修できる教育課程の編成である。

教育展開の方針は、「国際教養コース」では「世界にはばたく国際人を育てる教育の展開」であり、国際理解を深める国際関連科目や語学に関する科目を設置し、国際感覚の育成、英語の運用能力の向上を目指す。「美術コース」では、「豊かな創造性を高める教育の展開」であり、伝統芸術に関する科目や現代性を備えた美術関連科目を設置し（第 44 表）、表現能力の向上、豊かな創造性の育成を目指す。

単位認定については、計画に基づいた学校外での学習成果に加え、実用英語検定など

技能審査の成果による認定を行う。また、1年次は一般コースと専門コースによる「ミックスホームルーム」、2年次以降は各コース単独のホームルームにするとしている¹⁵⁷⁾。

横浜南陵高校

横浜南陵高校は、健康と福祉を融合した分野を深く学ぶことができる「健康福祉コース」を設置した。基本的コンセプトは、これからの福祉教育の目標を視野に入れながら、幅広い福祉・健康教育を展開すること、一般コースと専門コース相互の科目を履修できる教育課程を編成すること、そして地域との連携による教育活動の推進などである。

「健康福祉コース」の教育展開は、「新たな福祉教育の展開」を方針とし、福祉や健康とスポーツに関する科目を重点的に学ぶことができ、進学してより深く学ぶ希望に対応する教育を展開することを目指す。そのため、専門コース関連科目として「健康福祉基礎」などを設置するとともに、一般コースの生徒も選択可能な「現代医療」などの関連科目を設置する（第44表）。

学習指導では、地域との連携による交流活動や体験活動を重視した学習展開を工夫する。生徒指導等では、健康福祉に関連した学校行事や地域貢献活動の活性化などを工夫している¹⁵⁸⁾。

西湘高校

西湘高校は、理数分野や自然科学分野を深く学ぶことができる「理数コース」を設置した。基本的コンセプトは、地域の自然環境を生かし、理数分野や自然科学の分野に関する特色ある教育活動を展開すること、多様な選択科目を設置拡大することで、一般コースと専門コース相互の科目を履修できる教育課程を編成することである。

「理数コース」の教育展開は、「新たな理数教育の展開」を方針とし、理数や自然科学に関する科目を重点的に学ぶことができ、進学してより深く学ぶ希望に対応する教育を展開することを目指す。そのため、専門コース関連科目として「理数数学Ⅰ」等や、一般コースも選択可能な「理数実践」等の関連科目を設置する（第44表）。

学習指導では、学校全体で防災教育に力を入れ、地域との連携による交流活動や体験活動を重視した学習展開を工夫する。理数や自然科学に関連した学校行事や地域貢献活動の活性化などを工夫している¹⁵⁹⁾。

第44表 専門コースの主な関連科目

校名	コース	主な関連科目
白山	国際教養	実用英語、異文化理解、時事英語
	美術	美術概論、映像メディア表現、伝統工芸
横浜南陵	健康福祉	健康福祉基礎、健康栄養学、健康福祉科学 ＜一般コースも選択可能な専門関連科目＞ 現代医療、福祉コミュニケーション、現代福祉
西湘	理数	理数数学Ⅰ、理数数学Ⅱ、自然科学実習 ＜一般コースも選択可能な専門関連科目＞ 理数実践、環境科学実践、科学実践、

7 通信制新タイプ校、中高一貫教育校の設置

(1) 通信制新タイプ校の設置

横浜修悠館高校 平成20年4月に、通信制の独立校として、施設非活用校である和泉高校の敷地に横浜修悠館高校が開校した（第45表）。横浜修悠館高校は、これまでの通信教育の特性を生かしながら「多様で柔軟な学習サポートシステム」の構築を目指す学校である。

第45表 通信制新タイプ校の概要

設置地区 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
横浜西部・横浜中部 〔平成20年度〕	新設	和泉高校 敷地	横浜修悠館 高校	各年度1,200名 程度の募集予定	単位制

これまでの通信教育の学習システムは、自宅での自学自習を中心に、学習成果をレポートにまとめ添削指導を受け、日曜日に登校して面接指導（スクーリング）を受けるといった形態が主体であった。横浜修悠館高校では、生徒一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに応じて、科目ごとに学習形態を選択して学ぶことができる、学習システムを展開するとした。平日に登校して、講座を受講したり、学習指導を受けたりすることができ、またITを活用して、登校せずに自宅でスクーリングの代替となるデジタル教材（ITコンテンツ）を学習し、報告書（レポート）を提出することができる。さらに、添削指導、個別学習相談などを受けることもできる。

教育課程の基本的方針は、「多様で柔軟な学習サポートシステムを活用し、各自の履修計画に基づく履修を可能にする」こと、「これからの社会に必要な資質を育成するためのカテゴリーによる体系的な教育課程編成を行い、多様な選択科目の設置による多様な学習希望・進路希望への対応を図る」ことなどである。この方針を踏まえ、必修科目、選択科目で構成し、「国際社会に生きるグローバルな視野」、「IT社会に生きる情報活用能力」、「豊かな社会生活を築く社会性・人間性」といったカテゴリーによる体系的な教育課程編成を行うとした。具体的には、学習指導要領上の必修科目に加え、望ましい職業観・勤労観を育み、主体的な社会参加の意欲を高めるための「キャリアガイダンス」（学校設定原則履修科目）、国際社会に生きるグローバルな視野を育むための「国際理解」、IT社会に生きる情報活用能力を育むための「メディアリテラシー」、豊かな社会生活を築く社会性・人間性を育むための「くらしと環境」といった選択科目を設置する。また、大学・専修学校等との連携や技能審査の成果、学校間連携により他校で学習した科目の単位認定を行うなどの教育課程の弾力化を図るとしている。

教育展開は、登校講座、日曜スクーリングについては、50分6限を基本とし、必要に応じて弾力的な授業時間を設定するとともに、きめ細かな個別指導を行うため、個別面接指導時間帯（7限）を設定する。特別活動等は、異年齢集団による特別活動や、ITを活用したグループワークの機能や双方向通信のシステムを活用して特別活動に参加できるしくみを工夫するなど、人間関係やコミュニケーション活動のきっかけづくりを進

める。また、チューター制の実施や、ガイダンス、カウンセリングなど、生徒の生活を支える体制を充実するとしている。

入学者選抜については、中学校卒業見込及び中学校既卒業者は、調査書、面接の結果等を資料として総合的に選考するとしている。また、高校を中途退学したが再度高校で学びたいという意欲を持つ者、現在高校に在籍しているが通信制に転入学を希望する生徒など、多様な入学希望に対応するための機会を設け、弾力的な受け入れを進めている¹⁶⁰⁾。

コラム 8

通信制新タイプ校の立ち上げ、活動について

秦野高等学校長 時乗 洋昭（前横浜修悠館高等学校長）

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦勞したこと

＜オンリーワンの通信制高校を創り上げる＞

横浜修悠館は、他県の県立高校では類を見ない、平日登校してきめ細かな指導を受けられる平日登校講座と IT 環境を活用して学習できる IT 講座を擁する通信制の独立校として、県教育委員会が神奈川総合高校以来、13年ぶりに新設した県立高校であった。

新校の立ち上げはほぼすべてがゼロからの出発であったことから、「横浜修悠館だからできる、横浜修悠館しかできない教育活動」を創り上げることを目標に、スタッフは夜遅くまで良く議論をし、さまざまなアイデアを出し合った。

正に、オンリーワンの通信制高校を創り上げることをひたすら追い求めた準備期間であり、開校後にはこれが横浜修悠館の学校文化として定着し職員の積極的な活動を生み出すことにつながっていった。

＜自立と社会参加を目指した教育活動＞

この「横浜修悠館だからできる、横浜修悠館しかできない教育活動を行う」という理念は、「横浜修悠館が崩れれば、神奈川の教育の土台が崩れる」という想いの下に具体化され、多くの関係者と連携した自立と社会参加を目指す教育活動として実を結ぶことができた。

以下、主な教育活動を紹介する。

＜勉強したい生徒が安心して勉強できる環境をぜひとも提供する＞

生徒に対しては、勉強したい生徒の邪魔になるような行為は絶対に許さない、また、地域に対しては、学校はこの問題から絶対に逃げない、という強いメッセージを発信し続けた。

また、このメッセージの具現化として、中学校生徒指導専任、地元自治会、地元警察と連携の下に、「時間を守る」・「他人に迷惑をかけない」・「教員の指導に従う」というわかりやすい規則の遵守を求める指導を職員が一丸となって粘り強く行うとともに、スタッフが次から次へとアイデアを出しネットワーク良く関係者との調整や生徒への指導を行った。

さらに、生徒会をはじめとして多くの生徒がボランティア活動や地域のお祭りに積極的に参加するなど、教員はもとより生徒自らも地域住民と顔の見える関係づくりに努めた。

これらの取組みにより、開校後3年が経過した平成23年には学校は落ち着きをみせ、地域からも地域の学校として一定の評価を得るようになった。

＜不登校・発達障害等個別の教育的ニーズを有する生徒を支援する＞

通信制の特性を生かして個別の教育的ニーズを有する生徒への支援を如何に行うかが大きなテーマであった。

このため、準備段階に平成19年度から、神奈川県学校・フリースクール等連携協議会や同主催のすべての進路情報説明会に参加するなどして関係者との顔の見える関係づくりに取り組み、フリースクール等各種NPO団体、市町の特別支援教室や教育相談センター、特別支援学校との連携を進めた。

これら各種団体との連携に向けた取組みは後に、平成21年度からの「高等学校における発達生涯のある生徒への支援モデル校」、平成24年度からの「特別支援教育をテーマとした研究開発指定校」などの文部科学省指定事業として開花し、オンリーワンの教育活動を展開するための大きな原動力となっている。

2 生徒や教員の変化

＜オール修悠館＞

明確な目標の下に新校を立ち上げるという作業は、職員を一つのチームとしてまとめ、オール修悠館として課題に取り組んでいくという文化を生み出した。

また、生徒についても自らが新しい学校作りに主体的に参画する機会を与えることによってオール修悠館の一員としてその力を発揮した。特に、不登校経験のある生徒はそうでない生徒よりもいっそう積極的に参画し、生徒会の立ち上げや地域との関わりに大きく貢献した。

3 高校改革の成果

高校改革の成果はさまざまところで語られているが、私としては、明確な目標に向かって職員が一つになって物事を推進することができることを示せた、ということではないかと考えている。

これは、学校が果たすべき使命の下に校長が明確な目標を職員に与えられれば、職員は一つにまとまりそれに向かって力を結集できるということであり、従来の「ムラ社会」的な教員文化を打ち壊したといえるのではないか。

今後は、県教育委員会から示された再編整備計画に替わり校長自身が学校教育計画等を活用して学校が目指すべき明確な目標を職員に与えることができるかどうかが問われることになると思う。

正に、高校改革を経て校長のマネジメントにより学校が動く時代が来たといえると思う。

(2) 県立中等教育学校の設置

教育活動の方針

中等教育学校は「後期実施計画」に基づき、平成21年4月に大原高校との併設で平塚中等教育学校、相模大野高校との併設で相模原中等教育学校が開校した。学校規模は960名（各年次4学級160名、全24学級規模）、学期は2学期制、授業時間は45分7限を基本としている（第46表）。

第 46 表 中高一貫教育校の概要

設置場所 〔開校年度〕	再編対象校	設置場所	新校名	学校規模	備考
平塚市 〔平成 21 年度〕	大原高校 (併設)	大原高校敷地	平塚中等教育学校	960 名 (各年次 4 学級)	後期課程は単位制
相模原市 〔平成 21 年度〕	相模大野高校 (併設)	相模大野高校敷地	相模原中等教育学校	960 名 (各年次 4 学級)	後期課程は単位制

教育活動の展開は、「中等教育学校のしくみを生かした教育」と「社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育」の二点を方針としている。

前者の「中等教育学校のしくみを生かした教育」では、6年間を発達段階に応じて2年ごとに「基礎・観察期」、「充実・発見期」、「発展・伸長期」の3期に分け、学習内容の確かな定着を図りながら教育活動を展開する。後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行するなど、中等教育学校に適用される特例を活用し、6年間を見通した充実した教科指導を行う。ガイダンス、カウンセリング体制の充実、チューター制・リトルチューター制（後期課程生徒による前期課程生徒に対する支援体制）の導入など、6年間という期間を生かしたきめ細かな支援体制を確立するとしている。

後者の「社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育」では、「表現コミュニケーション力」、「科学・論理的思考力」、「社会生活実践力」の3つの力を育成する学習指導と、学校設定教科・科目「かながわ次世代教養」の設置により、幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育成する教育を行う。また、豊かな人間性とリーダーシップを育成する教育や、自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育を行うとしている。

2校が共通に設定する「かながわ次世代教養」は、6年間体系的・継続的に学習する教養教科・科目であり、IT活用、英語コミュニケーション、伝統文化・歴史、地球環境という4つの学習分野を段階的に学習することで、「神奈川の豊かな国際性や歴史・自然など地域の特性を生かしつつ、地球規模で環境や歴史文化、科学技術などを考える視点を持ち、適切に情報を活用し、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力」を育成する科目である。

教育活動の特色

こうした特色ある教育活動は、6年間を見通した学習活動として展開される。例えば、1・2年次の「基礎・観察期」においては、教科学習では少人数学習等の一部導入により「基礎・基本の学習」を徹底し、特別活動では1年次に「オリエンテーション学習」、キャリア教育では2年次に「産業体験学習」を行う。3・4年次の「充実・発見期」では、教科学習で校外機関との連携や学校外での学習活動の積極的な導入による「視野を広める学習」を展開する。5・6年次の「発展・伸長期」では、教科学習で「時事探究」（平塚中等教育学校）や「評論解析」（相模原中等教育学校）などの発展的、応用的な多様な選択科目を設置し、「個性に応じる学習」を可能にする。特別活動では、5年次に研修旅行、キャリア教育では5年次に大学・研究機関訪問、就業体験を行うとしている。

入学者選抜については、学区は全県を学区とし、募集定員は160名（男女各80名）と

する。選考方法は、適性検査、グループ活動、作文、調査書といった検査・資料により、県立中等教育学校の設置の目的に対応する資質・能力などの基礎的な力、学ぶ意欲や基礎的な学習の状況を見て総合的に判断し、入学者を決定するとしている¹⁶¹⁾。

平塚中等教育学校 平塚中等教育学校、相模原中等教育学校の2校は、前述したように、共通する教育活動の展開の方針を踏まえ、中等教育学校のしくみを生かした特色ある教育活動を展開するとしている。

その中で、次世代を担う人材に必要な「表現コミュニケーション力」、「科学・論理的思考力」、「社会生活実践力」の3つの力の育成については、平塚中等教育学校は、「表現コミュニケーション力」の育成に重点を置いている。

「特に『表現コミュニケーション力』の育成に重点をおいた特色ある選択教科や学校設定科目を設置する等カリキュラム展開に特色を持たせ、さまざまな分野で活躍し、実りある社会生活を築くために必要な、表現力や豊かな感性、独創性を伸長する」。

相模原中等教育学校 相模原中等教育学校は、「表現コミュニケーション力」、「科学・論理的思考力」、「社会生活実践力」の3つの力の育成については、「科学・論理的思考力」の育成に重点をおいている。

「特に『科学・論理的思考力』の育成に重点をおいた特色ある選択教科や学校設定科目を設置する等カリキュラム展開に特色を持たせ、国際社会の中のさまざまな分野で活躍するために必要な、科学的思考力、論理的思考力を伸長する」。

この3つの力の内容と、その力の育成を図るため、2校が設置する特色ある選択教科・科目例は第47表のとおりである。

第47表 3つの力の内容と特色ある選択教科・科目例

育成する力	内 容	特色ある選択教科・科目例	
		平塚中等	相模原中等
表現コミュニケーション力	相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力	ことばの力、暮らしの英語、など	評論解析、英語弁論術、など
科学・論理的思考力	科学的根拠に基づく考察力などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力	科学実験室、至高の数学、など	サイエンスチャンネル（多様な科学）、科学実験室、など
社会生活実践力	さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力	時事探究、生涯スポーツ、など	時事問題、サステイナブルソサエティ（持続可能な社会）、など

中等教育学校の立ち上げ、活動について

厚木高等学校長 田中 均（前相模原中等教育学校長）

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦労したこと

学校設定科目『かながわ次世代教養』の具体的な内容、中等教育学校に認められた学習指導要領の特例の実施など、新校設置計画をより魅力的に具体化できるよう、工夫をする必要があった。

中学校と高等学校しか経験していない職員が、中学校プラス高校ではない中等教育学校の設置に向け、新たな視点で学校づくりに取り組んだ。

県民の関心が非常に高く、開校前年夏の学校説明会の参加者数が5,000人、秋の学校説明会は6,000人を超えるなど、広報活動は大変だったが充実していた。

初年度の入学者決定検査への志願が2,600人を超え、志願書類を郵送で受け付け、郵送で願書を発送する業務が膨大で、平日は夜遅くまで、土日も出勤して作業に当たった。また、検査当日は相模大野、神奈川総合産業、海老名の3会場で同時に適性検査を実施した。母体校である相模大野高校の入学者選抜と平行して無事実施できたのは、応援の先生方、県教委、職員の頑張りのおかげである。

あわせて、適性検査の採点業務については、指導主事をはじめとする県教委の方々、支援していただいた他校の先生方に膨大な労力と時間を費やしてお願いすることとなったが、心から感謝している。

2 中等教育学校の設置の意義

中学生という心身ともに急激に成長し、不安定になる時期の生徒を育てることを通して、教師が生徒の発達段階の理解、教育指導の充実を図ることができる。

中学校、高校の学習指導要領をふまえ、中等教育学校に認められた学習指導要領の特例を活用することを通して、より系統的で柔軟な教育課程編成が可能になる。

中高一貫教育に対する県民のニーズは驚くほど高く、公立学校においてもこうしたニーズをしっかり受け止め、ニーズに応えていく使命があると考えている。

3 中等教育学校の生徒の学校への期待、教員の状況

新校設置計画に基づいた教育課程編成のコンセプトを明確にし、中等教育学校に適用される学習指導要領の特例を生かした特色ある教育課程編成を実施する中で、言語活動の充実を柱とする、生徒の可能性を信じる教育を展開している。具体的には、生徒が自ら発表する、質問する、その質問に応える授業の実践を通して、思考力、判断力、表現力を育成し、主体的に学習する態度を育成する教育を展開している。

前期課程では、生徒たちが心も体も急激に成長する思春期の多感な時期を過ごしている。元気一杯だが心配な側面を見せる時期でもあり、道徳や朝礼、朝の読書の実施、昼食時間を共に過ごすなど、職員が高校とは比較にならないほど、生徒に接近して教育指導を行っている。生徒は期待以上の学習の成果を発揮しているが、職員の生徒に対する強い思い、愛情が学校の屋台骨を支えている。

8 クリエイティブスクール、連携型中高一貫教育、定時制単独校(多部制)の設置

(1) クリエイティブスクールの設置

クリエイティブ スクールの特色

クリエイティブスクールは、田奈高校・釜利谷高校・大楠高校の3校が指定され、平成20年度から一部の内容の前倒し実施が行われ、平成21年度から本格的に取組みが始まった。その基本的コンセプトは、「基礎・基本の学力の定着」、「キャリア教育の推進」、「地域との協働」の三点である。また、「Challenge（学びへの意欲）」、「Career（キャリア意識の涵養）」、「Community（地域との協働）」という「3つのC」により「社会実践力」を育成するとしている。

こうした基本的コンセプトを実現するため、「わかる授業」の展開や実体験からの学びを推進するための教育課程の弾力化を図る。地域・保護者等との協働による学校運営のための学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の仕組みを活用する。「将来を切り開くために意欲的に学校生活を送ろうとする意志」を重視した入学者選抜を行う。

教育課程の弾力化については、「わかる授業」を展開し、学習意欲を向上させるための工夫として、すべての学習活動を1クラス30人以下の構成で実施し、学年や科目に応じた少人数の学習集団での授業を展開する。

また、進路への意識を高める工夫として、資格が取得できる力を育成する科目の設置、土曜日や長期休業期間における講座の開講などとともに、自らの生活を考える意識を高める工夫として、担任とのコミュニケーションの確保・充実、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーによる教育相談体制の充実、社会体験、職場体験、インターンシップといった社会参加の意欲やキャリア意識を高めるための体験活動を充実するとしている。

学校運営については、学校運営協議会制度の仕組みの活用や、キャリア教育推進のためのセンターの設置などがある。

入学者選抜については、「高校入学を期に、基礎学力や社会実践力を身に付け、将来を切り開くために意欲的に学校生活を送ろうとする意志がある」ことを重視し、新たな仕組みの高校で学び、力を伸ばしたいという意欲を尺度とした総合的選考を徹底することとし、後期選抜においても学力検査は実施せず、入学後の教育活動につながる検査を実施することとされた。

以下、ここで記載できなかった各校の教育活動の特色について、整理する¹⁶²⁾。

田奈高校

クリエイティブスクール3校では、すべての学習活動を1クラス30人以下で実施しているが、田奈高校では、特に1学年と2学年の数学・英語において、15人という少人数で授業を展開している。また、「職場見学体験」や「職業インタビュー」、インターンシップなど体験を重視したキャリア教育に取り組んでいる。さらに、教育相談コーディネーターの配置、スクールカウンセラーや外部機関等と連携した教育相談体制を構築している。例えば、大学生の学習支援ボランティアによる組織

的な補習や学習相談などが行われている。

釜利谷高校 釜利谷高校では、学年や科目に応じた少人数での授業展開に加え、基礎から積み上げる学校設定科目「ベーシックⅠ・Ⅱ」を設置するなど、「わかる授業」の展開を図っている。また、1・2年次生が同時にスポーツ、文化活動を体験する学校設定科目「体験活動」を設置し、異年齢集団の中で社会参加の意欲やキャリア意識を高める工夫や、人間関係づくりに効果的なプログラムである「SSE (Social Skill Education)」を計画的に実施し、社会生活における協働の意識を高める工夫をしている。特別活動等においても、栄養指導や心理的サポートなどを通じて部活動を支援するスポーツサポートシステムを取り入れ、部活動の活性化による人間関係づくりの工夫をしている。さらに、土曜日や長期休業期間に進路実現のための特別講座を開講している。(なお、釜利谷高校には、専門コースの体育コースが設置されていたが、クリエイティブスクールへの位置付けにより、発展的に解消されている。)

大楠高校 大楠高校では、少人数での授業展開に加え、基礎的な力を養う10分間の「朝学習」を実施したり、基礎から積み上げる学校設定科目「総合基礎」や多様で多彩な実体験型科目を設置するなどして、「わかる授業」の展開を工夫している。また、1日の授業後の「ふれあい SHR」や面談などによる担任とのコミュニケーションの確保と充実により、自らの生活を考える意識を高める工夫をしている。さらに、「総合的な学習の時間」である「社会実践」を中心に、3年間を通じて社会人、職業人としての資質・能力を高める工夫をしている。

コラム 10

クリエイティブスクールの立ち上げ、活動について

中田 正敏 (元田奈高等学校長)

1 開設準備の方法

クリエイティブスクールとは、実施計画において「多くの可能性を秘めながら、一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮しきれなかった生徒」を対象として、「これまで以上に学習への意欲を高め、基礎学力や社会性を身につけると共に、有意義な高校生活を送る意欲を高めることができるよう、また、卒業後も社会の一員として自らの目標を持てるよう、生徒の一人ひとりの状況に対応し、きめ細かな教育展開を行う」学校として位置付けられた。準備については、特に開設準備室は設置せず、通常業務を遂行しながら構想を練るといった枠組みであった。苦労もあったが、結果的には、これがもっとも現実的な学校改革に結びついたように思う。

学校づくりについては、「アイデア会議」を、準備開始年度当初、集中して実施し、現在機能している優れた資源に関して田奈高校の到達点を確認し、それを教職員で共有しつつ、さらに次の展開に向けての展開をはかるための創造的なアイデアを出し合うという形をとった。生徒と対話をしている教職員は、生徒の背景にある厳しい状況を

何とかするために具体的なアイデアをもっているという認識に立ち、方法としては、唯一の解を求めて互いに批判せず、互いの案を価値あるものとして見なし、多様な案をできるだけ多く出していくという設定で行った。実際に、出された幅広いアイデアの一つひとつが実現し、また、その具体化についての情報についてもニュースレターなどを通して共有化される中で、教職員のモチベーションが高まる形で組織が創られていった。

2 準備段階で、国の研究開発校の指定で、支援教育の具体的展開に関する研究を受けているのは、なぜか？

クリエイティブの理念について、支援教育であるとする発想は当初はなかったが、持続的な取組みには理念は不可欠であると考えた。そこで、教育ビジョンにある「かながわの支援教育」という理念が「学び高めあう学校」としての田奈高校で具体化されるという形で理論と実践を結びつけることを考えた。その成果であり、これまでの田奈の資源を最大限に生かしたものが、まず、丁寧に生徒の話を聴き、それを教職員のあいだで話題とする気軽な立ち話（オン・ザ・フライ・ミーティング）につなげ、その中で、チームアプローチや、ケース会議につなげていくという重層的な対話のシステムである。いろいろな事案を通して、「対話の中から生まれる支援」が具体的に展開し、重層的な対話のシステムが次第に着実に形成されていった。こうした「土壌」の上に、機能的な生徒支援、学習支援、進路支援の具体的な展開が可能となり、結果として退学率の大幅な減少を生み出すという組織創りに成功を取めたと考えている。この核心部については、対話のできる職員体制のインフラストラクチャーという側面で加配など教育委員会の多大の支援を受けることができた。

3 今後の課題は何か？

進路問題が喫緊の課題であると考えている。「入口」の問題については、観点別評価の一部と面接などによる独自の入試という枠組みが教育委員会から明確に示され、また、「真ん中」の問題については、対話を重視し、少人数による教育をさらに発展させることなどの方向性は明確であったが、「出口」の問題にはあまり踏み込んでいなかった。この問題の解決のためには、校内資源の活用のみでは限界があり、社会資源の活用を図る必要があると考え、「キャリア支援センター」の構想についてさまざまな試行錯誤を行った。ここでも、支援ができる組織創りの持続可能性が発揮され、現在の「バイターン」*)などのユニークな取り組みが開始されている。

最後に、こうした環境を必要とする生徒も多いと思う。こうした生徒にさらに対応する必要も、それに対応する力量も神奈川にはあると信じている。

* 「バイターン」とは田奈高校有給職業体験プログラムのことである。

(2) 連携型中高一貫教育校の設置

附属横浜中学校と 光陵高校の連携

平成 21 年度から、「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築 実施計画」に基づき、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校と光陵高校との連携が始まった。

この連携の基本的コンセプトは、生徒一人ひとりの個性を生かし、特性を伸ばす「人間科学」を基盤とした幅広い能力（「リテラシー」）を育成するための「中等教育の先導的モデル」の構築を行うことである。なお、ここでいう「人間科学」とは「人」が生き

ていく上でのさまざまな「かかわり」の科学としている。

教育展開については、「これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）」を育成するため、中・高の6年間を、「個性探求期＜発見＞」（中学1年）、「個性探求期＜探求＞」（中学2・3年）、「個性伸長期＜充実＞」（高校1・2年）、「個性伸長期＜発展＞」（高校3年）の4期に区分し、それぞれの時期におけるねらいに即した体系的な教育展開を進める。また、附属横浜中学校及び光陵高校の「総合的な学習の時間」の取組みを中心に、中・高・大の連携によるキャリア教育を推進するとした。

具体的には、県教育委員会が平成21年3月に設置した「中・高・大連携によるこれからの中等教育の先導となる教育実践モデルの構築に係る実践研究会」のもと、附属横浜中学校と光陵高校の教職員が教科ごとの作業チームを立ち上げ、横浜国立大学と県立総合教育センターの支援を受けながら、『「リテラシー」育成カリキュラム』の展開例及び実践例の作成などを行った。キャリア教育の展開については、附属横浜中学校の「TOFY（Time of Fuzoku Yokohama）」、光陵高校の「KU（Koryo Universe）」といった「総合的な学習の時間」において、探究活動を行っている。その成果の発表は、平成23年度から、附属横浜中学校と光陵高校の生徒に加え、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校の児童、横浜国立大学の学生・大学院生にも発表機会を拡大した「i-ハーベスト発表会」を開催している。

入学者選抜については、「連携枠」を設け、附属横浜中学校の在籍生徒で、附属横浜中学校との連携によるかながわの中等教育の先導的モデルづくりに基づく教育方針を理解した上で、リテラシーの育成を重視した学習に積極的に取り組むなどにより、一定の成果を挙げ、附属横浜中学校長の推薦を得た者を対象に、調査書や学力検査によらない選抜を実施するとしている¹⁶³⁾。平成24年度より定員40名の「連携枠」による入学者選抜が実施された。

愛川町立3中学校と 愛川高校の連携

愛川町立愛川中学校・愛川東中学校・愛川中原中学校の3つの中学校（以下、「愛川町立3中学校」という。）と愛川高校との連携の取組みは、平成21年度から始まった。

その連携による教育活動の展開については、「基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と学力の向上」を目指す「連携カリキュラム」、「地域理解や地域貢献（社会参画）意識の向上」を目指し、愛川町の多彩な教育資源を活用した「地域プログラム」、及びキャリア教育を推進する「キャリア・プログラム」の構築が方向性として示された。

そのうち「連携カリキュラム」については、学習内容の継続性が高い教科での中・高教員によるティーム・ティーチングの導入などきめ細かな学習指導を工夫し、愛川高校が平成20年度に設置した学校設定科目「i-Basic」の多様な展開を検討するとしている。

「i-Basic」は漢字、四則演算、英単語など5教科の基礎的・基本的な学習内容が難易度別にまとめられているドリル形式のプリントを使用し、ティーム・ティーチングによる指導が行われている。また、愛川高校が「i-Basic」を基にして「i-Basic 中学校版」を作成し、平成23年度から愛川町立3中学校で活用されている。中でも、愛川中原中学校では、「i-Basic 中学校版」を参考にして、平成23年度から「N-Basic」という国語、数学、英語のプリントを独自に作成し、家庭学習用の課題として取り組んでいる。また、

愛川町の自然・文化・産業など多彩な教育資源を活用した効果的な学習方法について、共同研究を進めるとしている。

入学者選抜については、「連携枠」を設け、愛川町立3中学校の在籍生徒で、愛川高校の教育方針や中高連携の意義を十分理解し、中高連携活動等に積極的に取り組むなどの一定の成果を挙げ、在籍する愛川町立中学校長の推薦を得た者を対象に調査書や学力検査によらない選抜を実施するとしている¹⁶⁴⁾。平成22年度より愛川町立3中学校から募集人員の2割に相当する計45名の「連携枠」による入学者選抜が実施された。

連携型中高一貫教育校の立ち上げ、活動について

光陵高等学校長 鈴木 俊裕

1 連携型中高一貫教育校の立ち上げに最も力を注いだこと

光陵高校は、平成19年12月に「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築 実施計画」が公表され、平成21年度より連携型中高一貫教育校としてスタートすることになった。

本校が連携型中高一貫校として動き出した平成21年度には、連携型の中高一貫校は全国で81校であったが、国立大学と県立高校による連携型中高一貫校は、すでに和歌山県において国立大学附属中学校と県立高校による取組みが展開されていたので、本校は全国第二例目となる。和歌山県への学校訪問等を行ったが、設置目的や設立環境の違いなどから、前例を踏まえての取組みにはかなり無理があることが分かってきた。結果として、横浜国立大学の先進的な教育力を活用して、前例のない独自の教育活動の展開に取り組むことになった。光陵高校が連携を進めるにあたって特に重視した取組みは、次の三点である。

(1) 「かながわの中等教育の先導的モデル」づくりの推進

実施計画に示された「これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力(リテラシー)」の育成を目指した教育展開を推進するため、中高6年間を見とおした系統的な教育実践に向けたカリキュラム開発を行った。例えば、よりよく生きるための幅広い能力として生徒に身に付けさせたい力とは何かを明確にすること。また中・高6年間を見通した授業づくりや合同連携した教育活動づくりの推進等である。その実現に向けて校内の担当者を決めることや関連組織を設置し、それぞれが各教科やグループ、学年等の業務をとおして教職員の共通理解を図った。

(2) 教育展開の実践研究の推進と成果の発信

附属横浜中学校は、すでに全国的にリテラシーの育成を推進するフロントランナーとしての地位を築いていたので、当初は教育展開を進めるにあたっての進め方等6年間を見すえ附属中学校教員及び横浜国大教育人間科学部教授を招いての定期的な合同勉強会や研修会を行った。また文部科学省の視学官・教科調査官、県教育委員会や総合教育センター等の指導主事、横浜国大教授等を招いて「研究発表会」(年1回)を、県内中学校・高校の先生方に公開した。「研究発表会」の内容は文部科学省の教科調査官のご講演、テーマをふまえて生徒参加型・生徒主体の研究授業、研究討議等である。このような取組みができたのも附属中学の先生方の先導的な教育実践の支援あればこそと思っている。

これらの教育実践の研究成果に基づいて作成した「研究紀要」を、年度末に県内中校・高校に送付した。なお第一回研究発表会からの年度別の研究テーマは次のとおりである。

- H20 リテラシーの育成、習得と活用をふまえた授業の展開
 ー生徒自身が主体的に学び、活用する授業の実践ー (参加者：80名)
- H21 リテラシーの育成、習得から活用へのプロセスをふまえた授業の実践
 ー思考力・判断力・表現力等の育成を意識した授業展開ー (参加者：170名)
- H22 思考力・判断力・表現力等を育む授業の実践
 ー各教科等における言語活動の充実をとおしてー (参加者：250名)
- H23 言語活動をいかした思考力・判断力・表現力等の育成
 ー学びの質を高める指導法の実践ー (参加者：210名)
- H24 論理的思考力とコミュニケーション能力を育成するための教育課程の研究開発

(3) 中学・高校の6年間を見とおした系統的な教育展開

連携型中高一貫教育校として中学6年間を見とおしたカリキュラム開発、校種を超えて授業の質を高める取組み、「総合的な学習の時間」などリテラシーの育成等を系統的に実施してきた。このように伝えると最初から順調に研究開発がなされていたと思われるかも知れないが、実際に進めてみると前例のない取組みであり戸惑うこともあった。また校内的にも学力向上進学重点校との関わりを含め、目指す将来像に対する先生方の不安もあったように思う。これらを解消すべく本校の将来のあるべき姿を提示するとともに、先進的な教育実践事例の報告会や文部科学省教科調査官による講演会の開催、また担当する教員や組織だけの取組みに陥ることがないように体制づくり、企画会議や職員会議などあらゆる機会を捉えて共通理解を図った。平成23年3月、本校と附属横浜中学校との継続的な研修の成果である、理論編・実践編・資料編の三部からなる『中高一貫教育における「リテラシー」育成カリキュラム実践研究例』(全130頁)が完成した。現在、附属横浜中学校と光陵高校の間の相互人事交流も行われ活発な教育展開がなされている。平成24年4月、連携募集枠での入学生を迎えることができた。

2 連携型中高一貫校の実践が生徒や教員にどのような効果をもたらしたか

本校生徒にとっては、KU(光陵ユニバース=総合的な学習の時間)や教科等での、課題を発見・解決し、探究することに向けた活用型授業を通じて、生徒は着実に「確かな学力」「考える力」「生きる力」が身についてきたと思われる。特に、KUの発表の場であるi-ハーベスト発表会では、高い表現力を身に付けた生徒が、自ら探究した成果を生き生きと発表する姿にも成果の一端を見ることができる。

連携型中高一貫教育校として、特に附属横浜中学校教員の教材研究の取組みや横浜国大の先生方による先進的な教育理論等を受け、職員にとっては講義中心の授業から自主教材の工夫をはじめ授業改善に対する取組みが飛躍的に進んだと思われる。

このように生徒の教育活動を指導し支援する教員も、学校全体で授業研究が盛んになり、個々の指導技術の向上を図る積極的な取組み姿勢とともに、「思考力・判断力・表現力等の育成」にかかる授業方法に関して、豊富な知識と実践力を有するまでになった。ここまでに至るには、県教育委員会及び総合教育センター、そして体育センターの指導主事による継続した指導・助言などのご支援をいただくとともに、さらに文部科学省の視学官や教科調査官の大所高所からのご指導をいただき深く感謝している。

(3) 定時制単独校（多部制）の設置

相模向陽館高校の 特色

本県初の午前部・午後部の多部制（二部制）の定時制単独校として、平成22年4月に相模向陽館高校が、ひばりが丘高校の敷地・施設を活用して開校した。課程・学科は、単位制による定時制の課程・普通科である。生徒数は、午前部が560名（1クラス35名×4クラス×4年）、午後部も同様に560名、合計1,120名（32学級規模）である。修業年限は4年、学期は2学期制、午前部・午後部ともに45分4限を基本とする。また、特別支援学校高等部の分教室を併設する。基本コンセプトは、「多部制による定時制高校の仕組みを活用した多彩な教育活動の展開」、「共に学び育ち合う教育の充実」、「学びのネットワークの構築」の三点である。

そのうち、「多部制による定時制高校の仕組みを活用した多彩な教育活動の展開」では、特色ある教育活動の展開やガイダンス・カウンセリング機能の充実を図るとともに、生徒が主体的に活動できる場及び機会として、「トライアルタイム」を設定する。「トライアルタイム」とは、午前部と午後部との間の時間帯に、生徒が自分の興味・関心に応じて活動できる時間として設けたものであり、生徒はこの時間を活用して、部活動、ボランティア活動など主体的に活動することができる。「共に学び育ち合う教育の充実」では、さまざまな生徒が学ぶ中で、「出会い・ふれあい・学び合いを大切にした教育活動」を展開する。「学びのネットワークの構築」では、学校の教育活動を活性化するため、学校・家庭・地域が協働して生徒の教育にあたることができるよう、学校をキーステーションとした学びのネットワークを構築するとしている。

教育課程の基本的方針は、午前部・午後部それぞれに設置する教科・科目は同一とすること、「トライアルタイム」等における科目履修、学校間連携、定通併修、学校外の学修などの成果に対して、弾力的な単位認定を行うことなどである。

学習指導・授業展開については、講義形式だけでなくグループ学習など参加体験型学習のあり方を工夫し、日本語の理解が不十分な外国籍等の生徒に対して、学習言語としての日本語習熟のための講座を設置するとしている。

特色ある教育内容を提供する主な科目には、基礎・基本の定着のため、「読む力」、「書く力」、「計算する力」の定着を目指す「ステップ」（学校必修科目、半期科目）、さらなる学力の向上のための「メディアから学ぶ英語Ⅱ」、主体的な体験のための「起業入門」、共に育ち合うための「多文化交流」、これからの進路のための「職業一般」などがある。

生徒指導等では、ホームルーム複数担当制やチューター制の導入を工夫するとし、「授業を大切にする」、「時間を守る」、「人の話を聞く」といったルールのもと、責任ある行動のとれる生徒を育成するとしている¹⁶⁵⁾。

入学者選抜については、午前部・午後部ごとに募集を行い、前期選抜では、募集定員の50%を調査書、面接及び自己表現活動、残りの50%は面接と自己表現活動により選考する。また後期選抜では、募集定員の50%を調査書、面接、自己表現活動及び学力検査、残りの50%は面接、自己表現活動及び学力検査により選考するとしている。

多部制定時制の立ち上げ、活動について

総合教育センター教育事業部長 伊藤 昭彦（前相模向陽館高等学校長）

1 新校開校にあたって最も力を注いだことや、苦勞したこと

定時制単独校開設準備担当の専任主幹となって直後に行ったことは、3部制先導校の都立高校2校の視察であった。そのうちの1校は開校2年目で、職員たちは「これから創るのであれば」と、敢えて多部制の課題を主に教授してくれた。そしてその内容は、視察を通して私が感じたことと符合していた。課題は大きく2つ、1つは、開校直後でも早くも職員の顔が混乱と困惑で引きつっていること。2つ目は、入学者で、不登校経験者の半数が入学後まもなく再不登校となること。

そもそも多部制を志望する生徒たちは人にかまわってほしく、ふれあい・交流を求めて入学して来る。しかし3部制は間断なく授業があり、生徒が教師や友人同士交流する時間がほとんどない。この情報を反面教師とすべく、私が着手したことは、既定路線であった3部制から2部制へのシフトと、それに加え、午前部と午後部との間に部活動やふれあい・交流活動を行うことが可能な「トライアルタイム」を設けることであった。結局、8クラス規模を維持しつつ、当初の3部制を変更し、設置計画に2部制でスタートと明記することができた。

一方、職員のメンタルヘルス維持のために、全員が目指すところを明確にするとともに、協働の文化を築く意図から、グランドデザイン、教職員行動綱領、学びのネットワーク構想、中期学校経営計画の策定、また、スクールアイデンティティ確立のために、標準服、校歌、校章等を新校設置計画策定と同時並行で開校前に決め、さらに生徒指導方針すり合わせのために、年間50回を超える研修を実施し、開校に備えた。初の入学式で職員が大きな声で校歌を斉唱し、一期生を迎えたい、との一心で、正月三が日で校歌を一気に作詞した思い出がある。

2 生徒や教員の変化

相模向陽館はそのグランドデザインが示す如く、学校のミッションとその実現の具体策を明確に打ち出した学校である。また、大胆な発想と方法で学校経営・運営に当たることができたのも、もちろん産みの苦しみにも遭ったが、全くの新校としてスタートできたことが大きい。こうした新生の息吹は当然、生徒にも職員にも好影響を与え、生徒も職員も共に手を携えて自分たちの学校を創っていくのだ、という校風の醸成に弾みをつけた。

3 高校改革の成果

相模向陽館は学校説明会や個別相談会に、「お客様に来てもらうのではなく、こちらから会いに行く」という特別な思いで臨む学校である。その機会に必ず聞こえてくるのは、「なぜもっと早くこうした学校を創ってくれなかったのか」、「生きる力を育む教育に学校全体で取り組む学校を始めて知った」という声である。多部制定時制高校へのニーズが、ますます高まる中、「高校改革で忘れてきたもの、置いてけぼりにしてきたものを取り戻すための学校」。相模向陽館はそうしたキャッチフレーズに恥じない学校として、ますます成長していくことと思う。